函館市立五稜中学校生徒会



第 五 号

五

稜



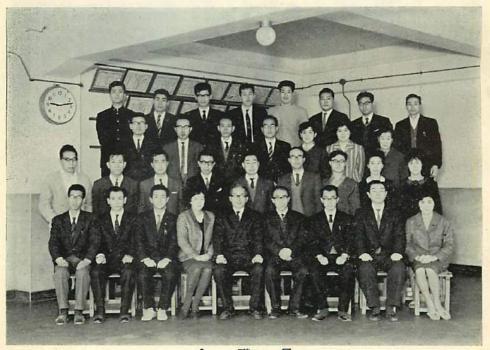
校

歌

大がある。 大があるなからなからなからというなからします。 大がないない。 大がないない。 大がないない。 大がないない。 大がないない。 大がないない。 大がないる。 大がないない。 大がないる。 大がないる。 大がないない。 大がないる。 大がない。 大がないる。 大がな、 大がな。 大がな、 大がな、 大がな。 大がな。 大がな、 大がな。 大がな。 大がな、 大がな。 大がな。 大がな、 大がな。 大がな。 大がな



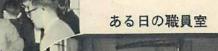
校 長



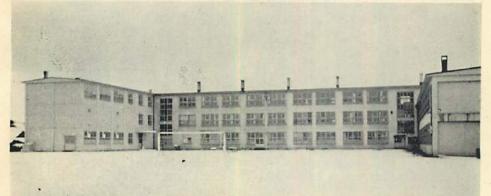
全 職 員



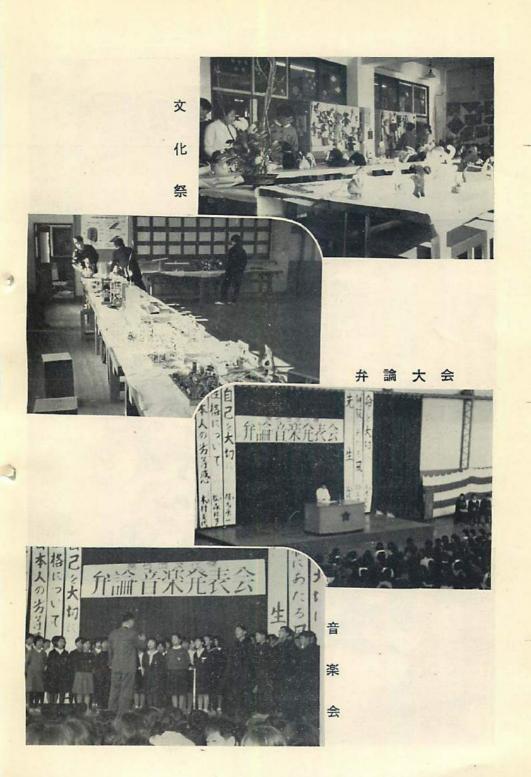
校舎正門

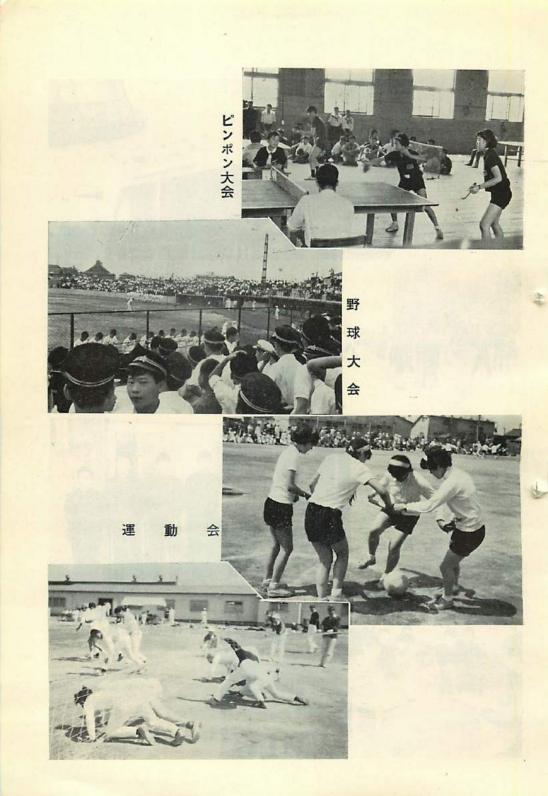


校舎全景



朝 会 風 景 景







五 稜

| 目 次 |
|-------------------|
| 表紙 安 井 孝 |
| いまにみていろ 校 長 |
| 三年間をふりかえつて 生徒会長 |
| 学級プロフイル 3A~3F : |
| 論 説 |
| 詩 14 |
| 作 文 17 |
| 部 報 クラブの歩み 30 |
| 専門部便り 4. |
| 40年度学校日誌から |
| 40年度受賞者一覧 50 |
| 学校生活を語る 生徒会座談会 55 |
| 卒業生のことば (住所録) 6 |
| 職 員 一 覧 |
| 編 集 後 記 |
| |

そうりっぱになることを心から念じています。

今に見ている

校 段 藤 川

光

夫

て、こう心に捋った樫の実が、幾星霜、天をつくたくましい大木に成長した……。という詩が私が少年のころの教科母にあったので ✔今に見ていろ、ぼくだって、見上げるほどの大木に、なって見せずにおくものか〃―― 山のふもとに根を張る椎の木を見上げ

生徒賭君は、この樫の実のように、それぞれのびる案質と可能性をもっていて、賭君を育てでおられる父母、いろいろとお世話し

て下さる大人の方は、その成段を念じ、期待しています。

学習においてはもちろん(クラブ活動においては中体連競技大会において、陸上競技・体操・卓球で優勝、他の部も準優勝またはそ 成長を助けているのです。 学校は、諸君のもつ索質や希望に応じ、この期待にこたえられるように、いろいろ環境をととのえたり、先生方が指導して、その 本校の賭君は、学習活動に、クラブ活動に、生徒会活動に1今に見ていろ1の志向と根性をもって、よく努力しているからこそ、

ることは1今に見ていろ1という皆さんの志向や根性に対してのはげましの言葉であるのです。 「一年の計は元旦にあり」「人生の計は中学校時代にある」「自分を大事にし、自分にうそをつく人間になるな」と常に話してい

れぞれりっぱな成績をあげているのです。

私たちの生活は、一分があって一時間があり、一時間があって一週間、一カ月、一年があるように、一度に大きくなったり、りっ

ばになったりするものではないのです。 一分・一時間を大事にし、一つ一つを誠実に実行しての積み重ねがあって大成するのです。

働きがあって、よりよい結果が得られるのです。「少年よ大志をいだけ」とか「人生はマラソンのようなものである」とかいわれる という教えでする のは、志なくて人間の努力は生まれてこない、マラソンのように自分のペースでたゆまない努力をしなければゴールに遠しないのだ それが学校とか学級とかいう集団として成果をもたらすには、ひとり、ひとりの志向と根性の上に、みんなで力を合わせる協調の これからはもちろん、いまの生活を特に大事にして〃今に見ていろ〃の志向と根性をもって、ひとりひとりの諸君がいまよりいっ

を 振 り 返

広

Ш

豐

た。もう私達にとって中学生として最後の冬が来てしまったのです。 毎朝学校に通う道も、はや銀色に踏みかためられ、北方に横たわる亀田連山も白々と雪化粧して、冬もいよいよ深まっ てき まし

舎に足を踏み入れた時の感動は、今も、はっきりと胸によみがえってきます。 本校は私たちが入学して、やっと全学年がそろっただけに、私遠は校舎の垳築工事の音を聞き、第一・二回生の学校生活の基礎を 大きな希望と新しい生活への不安とを胸にひめて入学式をむかえたのも、はげしい吹雪の続いていたころのことでした。

分たちが上級生といっしょになって学校を作っていくのだと心に誓ったものでした。 築き上げていくたくましい開拓精神との中で、最初の一年間をおくり、直接先輩の活躍と五稜中学校の発展を見てきました。 なかでも体育の時間は一年から三年までグランド・パレーコートの草むしり、土はこび、ローラー引きなどをして、ほんとうに自

かげで、今までの自分に欠けていた何かを得ることができ、さらにそれらがいくつかの思い出を生んでいるのです。 にできないのにやるとはなしにパレー部に入って、練習を始めたのです。それからやめられなくなりずっと続けたのですが、そのお だ残念なのは一年からスポーツをやっておけばよかったということです。というのは、二年の後半に、友違にさそわれてパスもろく とを経験してきたかということを、思い知らされます。この三年間にぼくも自分なりに努力し、思うぞんぶんやってきましたが、た **うちに過ぎてしまい何もなかったようにも思われます。しかし、また一つ一つ順をおって考えていくとこの三年間にいかに多くのこ**

今、この原稿を書いていて、ふとそのころを思い出そうとしましたが、そうふりかえってみると、入学以来、今までの事が一瞬の

す。そしてこの規約と生徒手帳とを実際に使って来年の生徒会を運営していく、後輩に期待します。 成し、三学期を待って承認というところまで持ちこむことができて生徒会役員の一人として公約をはたせられることが第一の喜びで で時間をとられたりして思うように運営できなかったことが残念です。しかしいま、私達総務の念願である生徒会規約も原案まで完 三年生になって、生徒会会長としての一年間ももう終わろうとしていますが、前半、何から手をつけたらよいか困ったり、中

卒業後も五稜中学校第三回卒業生として、この三年の掻験を充分に生かし、精いっぱい努力していきたいと思います。

学級プロフィール

会議の好きな三年A組

三年A組

スは、厳格な広沢先生以下、四五名からなる、らか過ぎて、先生を困らせることもしばしばあるが……私逹のクラらか過ぎて、先生を困らせることもしばしばあるが……私逹のクラ

ある。 、又班と班が対立するようなこともない。いたってなごやかなので、又班と班が対立するようなこともない。明女仲が悪いのでもなく、がので作られている。だからと言って、男女仲が悪いのでもなくた班に分かれていたものが、現在は、男女べつべつで気の合った者たの時からグループ作りを始めている。初めのうちは、男女一緒で現在のクラスは、二年生のクラス編成の時以後のクラスである。

らずに、じっと席についている者もいるが。期。とにかく授業が終わるとすぐ会職である。中には会職にも加わ期。とにかく授業が終わるとすぐ会職である。中には会職の 段 盛現在はストーブを囲んで、井戸端会職ならずストーブ会議の 段 盛学校に来ている間で、一番活発な時と書えば、休み時間だろう。

内球技大会でも女子は、いつもの活発ぶりを発揮させて、みごと準は愛きょたっぷりのおしゃべり型が多いように思われる。また、校せいかも知れない? いってみれば、男子はテレやで上品型・女子る。これは、男子より女子の方が三・四名ばかり多く気が強くなる男女を比べてみると、男子より女子の方が、はるかに 活 発 で あ

徴をおさめることが出来なかった。

りなのである。 このように、私達のクラスはなごやかで会議の好きな生徒の集ま

明るく活発なお組

三年日組

立き声が聞こえないのがふしぎに思えてくる、これでおしまいにし立き声が聞こえないのがふしぎに思えてくる、これでおしまいにしまった。ところが投業開始のだがその時間ではないのである。といえばさっしがつくと思うが、そう休み時間の話である…。〇〇君てステキ…、今日のボクシング誰が勝つか、ダ……(走る音)、コツン、ィテツ、アハハハ、フフフフ、ゲか、ダ……(走る音)、コツン、はずなのである。お聞きの通り注意する方がなんとなく騒ぎやすい先生とそうでない先生ではちがいが出てくる。後者の時間はいたって辞かである、だが他の時間すべて騒々くる。後者の時間はいたって静かないが、変ることが確かである。ところがなんとなく騒ぎやすい先生とそうでない先生ではちがいが出てくる。後者の時間はいたって静かないが、変ることが確かである。とこの時間はかなりよく聞こえるのだがその活発というのはH・Rや授業いえばかなりよく聞こえるのだがその活発というのはH・Rや授業が大はまずいない。全く静かな時間もある、だが他の時間すべて騒々くる。後者の時間はいたって静かないが、変ることが確かである。とれておしまいにしまないが、一つでは、これでおしまいにしまないが、一つである。とれておりますが出ているのであるからある。とれておりますによっているのであるがは、そう休みには、これでおしまいにしまいます。

ところがたくさんあることには間違いない。てもらおう。というとちょっと大げさになるが、我がB組にはよいては悪いクラスの代表のようなのでこのへんでB組の名誉挽迫させ

ではありますが、前進しつつあるのです。 THE AND 気持ちをわすれずに三年B組一同は自分の目的に向かって少しずついての男女総合優勝は、みんな心を一つにして応援し戦いぬいて手熱心に苦心して作り上げたものだ。秋の球技大会パレーボールにお熱心に苦心して作り上げたものだ。秋の球技大会パレーボールにお熱心に苦いとだと思う、また運動会の仮装の小道具は一人一人が一番大切なことだと思う、また運動会の仮装の小道具は一人一人が主が見なの仲がとてもよい、これはクラスを盛り上げていくのにまず男女の仲がとてもよい、これはクラスを盛り上げていくのにまず男女の仲がとてもよい、これはクラスを盛り上げていくのに

致協力の精神で

三年C組

を紹介したい。まず、学習委員、伝達、装飾などが我がクラス特別の組・・窓女(こう書いておかないと、やっつけられる恐れがあるの紳士・淑女(こう書いておかないと、やっつけられる恐れがあるが厳事の進行を追っかけている有様? このように、私達のクラスが厳事の進行を追っかけている有様? このように、私達のクラスが厳事の進行を追っかけている有様? このように、私達のクラスがあるから。)は、席替えとなるととたんにファイトが出てくる。ここで他のクラスでは絶対見られない、私達のクラスの見どころから。)は、席替えとなるととたんにファイトが出てくる。

製の委員が、一致協力してよりよい教室にしていることだ。一度C (多分ね) きれいな花の壁飾りや置き物、それに迷画?などが配置いことは全校で、まず右に出るものはないだろう。それに学習委員いことは全校で、まず右に出るものはないだろう。それに学習委員いことは全校で、まず右に出るものはないだろう。それに学習委員いことは全校で、まず右に出るものはないだろう。それに学習委員いことは全校で、まず右に出るものはないだろう。それに学習委員いことは全校で、まず右に出るものはないだろう。それに学習委員いことは全校で、まず右に出るものはないだろう。それに学習委員よく飾ってある。(なにしろ担任が美術の先生でして)教室が美しいことは男子が上位独占、しかし女子があまり哲わず総合は惜しく返勤会は男子が上位独占、しかし女子があまり哲わず総合は惜しく必要の委員が、一致協力してよりよい教室にしていることだ。一度C 製の委員が、一致協力してよりよい教室にしていることだ。一度C

.

3

いた先生はびっくりした。のんきそうなC組ではあるが、父兄会で思いの他勉強していると聞

きる紳士・淑女たちの胸に残るであろう。い一致協力の精神)は消されていない。この三CAIドは明るく生ようである。しかしそれでも我がクラスの本性(全員がよく溶け合劣っている。」先生方に言われたことはあるが、このごろでは逆な二年の時は「C組は明朗で活発でよいクラスだが勉強の面で少し

明るく楽しい学級三D

二年D組

このことばで今日一日開始。このことばで今日一日開始。

では我が三年D組を紹介しよう。

る。中、ま、さまざま、高校入試、就職問題、どこ吹く風、柳に風であ中、ま、さまざま、高校入試、就職問題、どこ吹く風、柳に風である、決ってストーブにかたまっている連中、寒さも忘れて前日の体を、決ってストーブにかたまっている連中、寒さも忘れて前日の体まず朝の一時、スムーズにあかない戸を無理にあけて 教室 へ入まず朝の一時、スムーズにあかない戸を無理にあけて 教室 へ入

ばかりか) れた日はない(願わくばこれを勉強にむけてくれ……と祈るは担任のんきなのか、にぶいというのか(失礼)一日として遊ぶのを忘

あまり静かであるからだろう、議長は例の通り「何か意見ありませと感じる時間でもある(ここらで木魚がポクポク……)というのもさて一時間目のホームルーム、平家物語にある無常感をしみじみ

ったやつばかりだもんね)……と十分もしないうちに食べ終わりま、パンの取り合いをするもの(しかたがない、みんな食い意地のは我れ先にとばかりどっと押し寄せ頼んだ分より多くとってくるものなのみ、「日本のは で 内職をやったり世間ばなしによねんがない、 厳長の声が空間に響くのみ、「日本のは と のみ、「日本のは は し に よねんがない、 厳長の声が空間に響んか?」と必死に叫ぶ、一方みんなは関係がない、といった顔つきんか?」と必死に叫ぶ、一方みんなは関係がない、といった顔つき

r品)をしょう - はこそつ)。い調子だ、議長が前に出て「何かありませんか?」「ないよ」「じ帰りのホームルーム、相も変わらず日誌の反省のらんは白紙、い五時間目は満腹と疲労のためうつらうつら

たまた例の調子。

しかし、スポーツ競技に一丸となって戦ったあの日あの時、組は、まあおせじにも模範的なクラスとは書えない。すさまじい早さだ、門脇女子の熱弁もそっちのけ、このようにDゃ帰りましょう」以上終わり。

まれた学級だった、いを敵怒していさめてくれた担任、ほんとうにりっぱな担任にめぐ、ある時は友の不幸を共に泣いてくれた担任、そして大きなまちがやんちゃで底なしのお人好しの楽まりをとても愛してくれた担任我々には忘れ得ない記憶だ。

各テストに追いまくられながら友と肩くみながら駿論した日々、

尊敬する門脇女史に心から感謝をこめて―― 最後に人間性を尊び、一人一人に悄熱を傾けてくださった我らが

三年D組一同。

のんきでにぎやかなクラス

三年E組

女の意見が対立するときでもある。まあ結果は五分五分といったと うのだ、みんな考えこんだ、でもA君が「それなら電気 つ けよ う みんな真剣、あるときこんな鎹題が出た。クラスが暗くなったとい 思いますが………」この一目で大体シュンとなる、わがクラスがい ストーブは人気上昇。エネルギーのやり場に困る男生徒などは、ち ころ、H・Rはこの調子で何とか終る。やがて休み時間ともなると や」と言ったのにはみんな笑い出してしまった。また、H・Rは男 か、である。でも、関心がないわけではないクラスのこととなると ラスのこまごまとしたこと、生徒会からの議題はみんなどこ吹く風 物音一つしない。みんなに人気のある巖題は一番が席かえ、次がク なから親しまれている厳長が「何か議題ありませんか。」シーンと かに素直かわかるだろう。いよいよH・Rが始まる、正義派でみん で定評のある金田先生がいらっしゃる。「みんな、勉強していると な人達が多い。だいたいこんなタイプがミックスしたE組が成り立 というところ。最後はやじ馬型、ユーモアのある酒落をとばす愉快 しこの人たちが白熱してきたら、わがクラスのH・Rも国会顔負け **うわけだろう?次がお客さん型、まったくもっておとなしい。しか** けられる、まずハッスル型、ところがこれが女生徒に多い、どうい Rが静かなようではナンセンスだからこれで良い。全くH・Rでは っている、そしてその総もとじめに落ちついた態度と深みのある声 クラスのいろいろなタイプがよくわかる。だいたい三つぐらいにわ 静かなH・R、(でなくてスイマセン)の始まる時間、でもH・

ちろん口の運動である。ょっとしたすき間もボクシング会場に早がわりさせる、女生徒はも

さて、男女仲は?と聞かれると、たいへん良い。男生徒はにぎやかで竹をスパッと割ったような人ばかりで、女生徒もとてもやさしかで竹をスパッと割ったような人ばかりで、女生徒もとてもやさしかで竹をスパッと割ったような人ばかりで、女生徒もとてもやさしかで竹をスパッと割ったような人ばかりで、女生徒もとてもやさしかで竹をスパッと割ったような人ばかりで、女生徒もとてもやさしかで竹をスパッと割ったような人ばかりで、女生徒もとてもやさしかで竹をスパッと割ったような人ばかりで、女生徒もとてもやさしかで竹をスパッと割ったような人ばかりで、女生徒もとてもやさしかで竹をスパッと割ったような人ばかりで、女生徒もとてもやさしかで竹をスパッと割ったような人ばかりで、女生徒もとてもやさしかで竹をスパッと割ったような人ばかりで、女生徒もとてもやさしかで竹をスパッと割ったようにあるのだから、兄談を言い合えるクラス、のんきなの気楽に肩をたたきながら、兄談を言い合えるクラス、のんきなの気楽に肩をたたきながら、兄談を言い合えるクラス、のんきなの気楽に肩をたたきながら、兄談を言い合えるクラス、のんきなのが欠点というこのクラスももうあと三カ月、あとは持ち前ののんきさて、男女仲は?と聞かれると、たいへん良い。男生徒はにぎやさて竹をスパッと問かれると、たいへん良い。男生徒はにぎや

おとなしく平和なF組

年 F 組

Ξ

んいます。任にもったせいか、われわれの中にも美声(?)の持ち主がたくさ任にもったせいか、われわれの中にも美声(?)の持ち主がたくさで静かでみんなのことをよく考えているようです、音楽の先生を担まず最初にクラスの担任永井太郎先生を紹介します。彼はのんき

つぎにクラスの毎日の様子を御披露します。休み時間などは、ま

'n

ì

K

×

×

るのもお忘れなく。 といっても、いつも悪いとは限りません。時には良い成緻の時があ おとなしいわりに学習成績の方はあまりよくありません。よくない 戸をよそにみんな、賤長は何をする者ぞというような顔つきです。 うと数学の時間になると、借りてきた猫のように静かになってしま るで、餌がへんとうせんになったような声をはりあげていたかと思 います。H・Rの時間は曦長「何か意見はありませんか。」という

童・トン・マンモス等……」数えきれないほどです。 白・黒」と色がそろっているのをはじめ、「ガマ・馬・キリン・河 ますと、その人それぞれに特有な性質があらわれていて「赤・背・ あだ名は四七人四七色、人間性にあふれたクラスです。例をあげ

勉強の方へ回ったらもっと良いクラスになるのかもしれませんが。 なってもなかなか席に着かない時もあります。この力を入れるのが びの方に力が入りすぎてガラスを割ったり、五時間目始業のベルが だけです。不まじめだからではなく、F組の生徒は勉強の時間は勉 室のあちこちで騒ぎ始めます。勉強しているのほほんの少数の人達 からなのです。弁当が終わると今度は小数のグループに分かれて教 いやしいからではありません。四時間の勉強に熱中(?)していた さとパンのふくろを破ってかじりつく者がたくさんいます。でも、 と騒がしくなります。簸長の「いただきます」の声も聞かずにさっ でも、あまり乱ぼうな人もいないし、わりあい平和なF組です。 昼休みの時間は待ちに待った楽しい弁当の時間。とたんガヤガヤ 遊びの時間は遊びとわきまえているのです。でも時にはその遊

論

説

制服にあたる風

年

羽

立

澄

子

出来上った時の想像は皆さんも体験されたと思います 服が決まりますように、と祈っていたくらいでした。PTAや、先 家に帰っても家族みんなで喜ぶように私は努力しました。どうか制 せっかく忘れ去ろうとしたこの制服の話に私は半信半疑ながらも、 中学校という未知な生活に入ることの不安と緊張でだんだんうすれ せん。残念に思いながらも、この制服にすっかりあこがれてしまい 学校の制服を見ていました。何度見ても自分の学校の制服がありま のだと思うと安心した気持ちでいっぱいでした。この喜びと制服が いろいろな型、色、制服を着た姿など、次々と想像してみました。 てきたことは小実でした。夏休みも終わり、第二学期の勉強が始ま ました。中学校に入ってからも度々思い出すこともありましたが、 はあこがれて、一度でよいから着てみたいと思った制服が、出来る 生方の会議により正式に決定し、各家庭に詳しく連絡があった時私 って間もなく、私達の学校にも制服が出来ることを耳にしました。 私は三月末頃、何かの売り出しで大混乱していたデパートで各中

ました。プロ野球の選手がユニホームを澄ないで野球をしたらどう ある日、テレビで野球を見ていた父が私を呼び次のことを質問し

なるか。私はあまり突然であったので、うまい返事がうかんできま

美しく、丈夫で、社会から愛されるように、私選一人一人が努力し くれました。私はようやく、ユニホームを着ないで野球 をし た場 **にして、私遠中学生の活動を妨げてはなりません。いつも中学生ら** なければならないと留います。だからと言っで、いつも風ばかり気 たえられるふだんの注意と努力が必要だと思います。制服がいつも したら、風は私達の制服に関係なく、ある時は強く、ある時はやさ 多くの目が向けられることでしょう。この多くの目を風に例えたと 向け、同時にその物の価値をしろうとします。制服を着た私違にも ばかりおられないのではないでしょうか。私違はきれいな物に目を ます。こうなると私達は、制服が出来るからと言って、ただ喜んで ん。上手、下手を意識したり、引っ込み思案になる例が多いと思い てさえもらいました。しかし、中学生ともなればそうはい きませ 踊りが下手であっても誰も下手だとは言いません。別な表現でほめ を着て踊り、みんなからきれいだねと言われて苺んだものでした。 こで皆さんと一緒に制服に対する心構えを考えてみることにしたい 生かされるものだということもしりましたが、やがてできる私たち また、ユニホームを着た場合、プレーに対していつも努力と資任が 合、選手として充分なプレーが出来ないということを知りました。 なずくと、野球が出来ないということについていろいろと説明して せん。それでただ出来ないと答えました。父はそうだ、と大きくう と思います。例えば私達は今まで港祭りや、お盆に、きれいな萧物 の制服にも同じことが言えるのではないでしょうか。結局、制服を しく吹きあたることでしょう。いつ、どんな風が吹こうと、それに

たかく吹きよせるのです。ししく、足はいつもやさしく、あたしく、そして毎日の勉強に努力すれば、風はいつもやさしく、あた

を持ち、堂々と胸を張って毎日の学校生活を送ろうではありません皆さん、私達は、新らしい制服に五稜中学生としての自信と誇り

性格について

二年松森睦

子

す」 す」 みしょう、ほととぎす」「鳴かぬなら鳴くまで待とう、 ほ と と ぎ

「鳴かぬなら殺してしまえ、ほととぎす」「鳴かぬなら鳴かして

格が学校生活にどのような影響を与えているか考えてみたいと思い私は三人の性格が歴史を変えていったように、私達一人一人の性

ħ

ます。

るのです。です。顔や、体がそれぞれちがうように、性格もみんなちがっていです。顔や、体がそれぞれちがうように、性格もみんなちがっていあなたに少し似た人はいても、決してそっくり同じ人はいないはずとして、あなたと同じ顔をした人がいるでしょうか。そうですね、皆さん、あなたのまわりの人たちの顔をみてごらんなさい。一人

ビや、外で遊んでいる友達の声が気になるなどが多くあげられていつのことに全身を集中できない。」つまり、勉強していても、テレいろな悩みを持っていることがわかりました。例をあげますと「一いのなどのように私達は、一見つまらなく思っている性格についていろとについての悩みが一番多い数を示したのです。とについて調査したことがありました。その結果はなんと、自分のとについて調査したことがありました。その結果はなんと、自分のとについて調査したことがありました。

切なものでした。

おくことは、将来のために決してよいことではありません。ですかたらと続けられていったらどうなることでしょう。その人の将来へだらと続けられていったらどうなることでしょう。その人の将来へだらと続けられていったらどうなることでしょう。その人の将来へだらと続けられていったらどうなることでしょう。その人の将来へだらと続けられていったらどうなることでしょう。その人の将来へだらと続けられていったらどうなることでしょう。その人の将来へだらと続けられていったらどうなることでしょう。その人の将来へだらと続けられていったらどうなることでしょう。その人の将来へだらと続けられていったらどうなることではありません。ですかないと、京田ではないのでしょう。

ベトナム戦争と私たち

のになるように、お互いに努力しようではありませんか。

自分の一生を決定する重大なこの中学校生活が、本当に有意義なも

一年若杉継道

私が今これから発表し、みなさんに考えていただきたいことは、

及び、その他の局地的争いのことです。テレビ、ラジオ、新聞などで毎日のように報道されているベトナム

それが原因で彼等ベトナム人は、同じ国民でありながら、お互いをし、北と南へ分裂させ、対立させてしまったのです。界の二大国といわれる中国とアメリカが、何らかの形で軍事的援助界の二大国といわれる中国とアメリカが、何らかの形で軍事的援助ベトナムは長い間の植民地時代をおえ、新らしい国家を造り、新ベトナムは長い間の植民地時代をおえ、新らしい国家を造り、新

ん御存じのことと思います。つつあるということは、私が改めて言うまでもなく、すでにみなさつつあるということは、私が改めて言うまでもなく、すでにみなさいうところまでに広がってしまい、今なおそれは日に日に拡大されいとに殺しあう、けものと化してしまったのではないでしょうか。

政府軍との激戦が行なわれているかもしれません。日のように流されて、今日も又ベトナムのある一部ではベトコンやる戦火は軍事設備何個撃破、又、死者何名などというニュースが毎×月×日、アメリカ空軍機によるハノィ周辺への爆撃、これによ

国時代ではないでしょうか。
おだんは平和で静かな村でも、まるで白アリが食い荒らしたよう、欲されたりし、これは俗にいう戦等の生活の中心である資年たちは戦いにかり出され、残った者は老住む所も、そして着るものもなくなってしまう。あげくの果て、彼住なってしまい、ある者は親を失い、又、子を失い、食べる物も、になってしまい、ある者は親を失い、又、子を失い、食べる物も、になってしまい。

とがはっきりわかっていないのではないでしょうか。には、戦争というものの実態を本当は何か、どんな物か、というこしかし、平和な戦後の日本に生まれ、そして、育ってきた私たち

と考えていて、夜もおちついて寝ることができないのではなかろう私たちのような平和はなく、いつ、この地が戦場になるのだろうかところが、同じころに生まれ、育ってきた彼等ペトナム人には、

どんなに幸せかということがしみじみと考えさせられるのです。これらのことを考えると、私たち日本に住んでいる者にとって、かと、私は思います。

ます。それだけに各国の競争心も大きく発達し、又、争いも起りか人になるころは、科学は今の何倍となく大きく発達することと思いえ、入り込まなければならないのではないでしょうか。私たちが大え、と同時に、私たちは、もっと戦争というものに対して深く考

ることがまず先決ではないでしょうか。し、平和にし、平和に生きるためには、このみにくい争いをなくすればいい、又、平和に生きる権利があると主張するだけです。しか(今の世界の多くの人々は、ただ単に平和になればいい、平和が来ねないと私は思います。

求し、広く社会の実態を知り、関心を持つ、ということが何より必そのためには、私たちは今、この地位を生かして、知識をより探全世界の人々に課せられた最大の義務ではないでしょうか。これを達することは、次の世界をにない、築き上げていく私たちるされた。

実態をくわしく書き表わした書物を読み、理解することが必要だとそして、それには、社会の現実の様子を書き表わした新聞とか、

要になってくるのです。

はありますが、これからの世界を築き上げるためにも、大きな戦労戦後に生まれ、戦争というおそろしさの知らない未熟な私たちで

私は思います。

ħ

ただ一回のみに許された試験による成功と失敗によって必然的に生

後に過ごし、戦争のことも、もっと真剣に考えようではありません類うとともに、学校生活においてのささいな爭いをもなくし、有意日も早く解決し全世界の人々が平和な生活を送ることのできる日をへと発展しかねないベトナム戦争が、又、その他の局地的争いが一

中学生の生きる悩み

三年上沢雄平

中学生生活は、我々の受けなければならない最後の義務教育課程う。

言えば、まず第一にやがて来る受験のことについて で ありま しょ

「中学生の生きる悩み」という演題でありますが、我々の悩みと

かであります。しかし、これらの並々ならぬ努力にもかかわらず、かであります。ということは、本当に進むことなのです。毎日毎期であります。ところで、我々中学三年の大部分は、高校進学の中に勉強出来るということは、本当に恵まれたことであり、幸わ中学三年はその最後の学年であり、進学、又は就職へと頭を悩ます中学三年はその最後の学年であり、進学、又は就職へと頭を悩ます中学三年はその最後の学年であり、進学、又は就職へと頭を悩ます中学三年はその最後の学年であり、進学、又は就職へと頭を悩ます中学三年はその最後の学年であり、進々の買いは、希望するものすべたが高校に進学出来、又それぞれの道に進むことなのです。毎日毎日の勉強によって我々に相当の実力が養成されてきていることは確日の勉強によって我々に相当の実力が養成されてきていることは確日の勉強によって我々に相当の実力が養成されてきていることは確日の勉強によって我々に相当の実力が養成されてきていることは確日の勉強によって我々に相当の実力が養成されてきていることは確日の勉強によって我々に相当の実力が養成されてきていることは確日の勉強によって我々に相当の実力が養成されてきていることは確定という。

これは、悪い例ですが、昨年のことでしたが、ある中学生が、高とされて洋々たる希望を持って進学に、又、勤めにつき、ある者はによって洋々たる希望を持って進学に、又、勤めにつき、ある者はたかな失った者はただぼう然と、何をすべきかもわかりません。みを失った者はただぼう然と、何をすべきかもわかりません。みを失った者はただぼう然と、何をすべきかもわかりません。これは、悪い例ですが、昨年のことでしたが、ある者は受験の成功ことではないでしょうか。我々の仲間のうち、ある者は受験の成功ことではないでしょうか。我々の仲間のうち、ある者は受験の成功ことではないでしたが、ある中学生が、高されている。

は、これ又、人に遅れをとるばかりで、かえってマイナスになるだといって、灰色の背春なんて真っ平ご免だといって、火色の背春なんて真っ平ご免だといって、やれサーフィといって、灰色の背春なんて真っ平ご免だといって、やれサーフィといって、灰色の背春なんて真っ平ご免だといって、やれサーフィといって、灰色の背春なんて真っ平ご免だといって、やれサーフィといって、灰色の背春なんて真っ平ご免だといって、やれサーフィといって、灰色の背春なんて真っ平ご免だといって、やれサーフィといって、灰色の背春なんて真っ平ご免だといって、やれサーフィといって、灰色の背春なんて真っ平ご免だといって、やれサーフィといって、灰色の背春なんて真っ平ご免だといって、やれサーフィといって、灰色の背春なんて真っ平ご免だといって、やれサーフィといって、灰色の背春なんて真っ平ご免だといって、やれサーフィといって、灰色の背春なんで真っ平ご免だといって、おる中学生が、高さいって、大色の背春なんで真っ平ご免だといって、やれサーフィといって、水色の背春なんで真っ平ご免だといって、やれサーブが、高くいって、水色の背春なんで真っ平されているだといった。

に、又はラジオ、テレビに目を通し、耳をかたむけると、アジアの目を転じて、大人の世界について述べてみましょう。朝夕の新聞

けです。

でありますが、もし、沖縄からのアメリカ空軍機による北ベトナムのわからない条約によってアメリカ軍が日本の国を守っているよう憲法という法によって戦争を放棄し、日米安全保障条約というわけ一部の国々では毎日戦争が絶えないようであります。日本は日本国

日本人の劣等感

ありませんか。

三年木村

美

っている人がいないでしょうか。

これは条約改正を急ぐ明治時代の一政治家の言ったことばです。て条約上寨西各国同等の地位にのぼることを得べし。」ロッパ的人民とせよ。ただよくかくの如くにしてわが帝国は、始め「わが国を化してヨーロッパ的帝国とせよ。わが国民を化してヨー皆さん、皆さんはこのような言葉を聞いたことがあり ます か。皆さん、皆さんはこのような言葉を聞いたことがあり ます か。

。このようなことがたびたびあるため、外国人の間では「日本語を 使うな」という相言葉があるとさえ聞いております。外国人の話ば 不必要なほど多く入れ、相手の困っている顔をみて、得意満面にな かりではありません。日本人の中にもふだんの会話の中に外国語を したてたところ、急に態度が変わって、へり下ったということです よい扱いをうけなかったのです。ところが、英語でペラペラとまく 語を使ったところ「なんだ、日本人か」とでもいいたげに、あまり 世が日本語を勉強し、あこがれの日本へ来て、ようやく覚えた日本 わりついているのです。その例をあげてみましょう。ある日系の二 現代に西洋文明に対する日本人の劣等感として私達のまわりにまつ つの時代を作った欧化主袋がユーレイのように、いや、現実のこの が出来るのだ。ということなのです。当時、まじめに考えられ、一 らない。それではじめて西洋の国々と対等の立場に立って話し合い ように、文化のすすんだ文明国のごとく、体裁をつらくなければな めに、日本をヨーロッパの国々のように、日本人をヨーロッパ人の 太平の夢をやぶられ、よぎなく結ばされた条約を有利に改正するた 長い間の鎖国政策によって外国と接することのなかった日本が、

多分にあるのではないでしょうか。い物だ」と考え、その物の良し悪しを考えず、すぐとびつく傾向がい物だ」と考え、その物の良し悪しを考えず、すぐとびつく傾向がんだんに入ってきております。私達は外国製というと観念的に「良又、最近、貿易の自由化がさけばれ、私達の身辺に外国製品がふ

けないもの、外国製はわるいものというのでは決してありません。うすてさっていいのではないでしょうか。しかし、これは外国はい私遠の心の奥に根強く残っている百年前の欧化主義の思想は、も

'n

皆さんは、この言葉の意味がおわかりですか。

き上げるのが私達の願いであり、望みなのです。 むしろ、外国のよい風習、よい文化を取り入れ、よりよい生活を築

立派な風習、美しい伝統があるのです。諸外国の人々がおどろくほ 日本人として外国人と肩を組み、大地をふみしめ、劣等感をけちら しいものをしっかり身につけましょう。そして、世界に目を向け、 ど、文化が、産業が発達したのです。 へりくだることはないのです。私達は、私達のほこりとする古く美 皆さん、私達にも私達の先祖が長い歴史の中に作り上げてくれた 正しい外国感を身につけ、外国だ、外国人だからといって、変に どうどうと胸をはって進もうではありませんか。

かもめ島

波をかぶった岩穴に指先き入れていそがにをとる

高

橋

守

穂







Ξ 年

夏の日のテニスコートよ 赤土の風に吹かれて石拾いする

保

幸

=

立待のきりたつがけの上に立つ 限下にさわぐ泡だつ海よ 井

4

正

人

夏の日の層雲峡の空曇り かすんで見える大雪の山

綱 森 哲

美

川岸に立ちて仰ぐは緑なす父が登ったせんげんの山 木 村 美

代

秋

美

年 笹

Ξ

島 文 驱

時間がたっていく。 ぼくは、そういう不安でいっぱいになる。 ―難問題にぶつからないように――

時計の音が妙に耳に響く。 カチカチカチカチ…… 先生のテスト開始の声がかかる、

「よし、始め」

そう思いながら問題をこなしていく。 ―今のところ淵子いいぞ――

カチカチカチ・・・・・ !あっ! 難問だ! いくら考えても解けない。

時計の音がぼくを不安に落としこむ。 ハラハラ心がふるえてくる。

ーあと二分か――

手がふるえて、うまく書けない。 あせるな!― あせってくる。 カチカチカチカチ・・・・

ぼくは心にそう言いきかせ ハラハラした心を落ち着かせようとする。

五〇分間の紛争

Ξ 年

背 Ш

'n

去った。

ほおがぬくみ、汗のふきでる私の面を秋風の乾いた冷気が快くなで

ふくんだときいく分落ち着かせてくれた。

その胸のときめきを、冷たく色のない美しい沢の水が、それを口に

美しさに胸がつまるほどだった。

黄、镫、赤、茶と色とりどりのペールでおおっていた。

幾万、いや幾億もの木々の紅葉が むこうに見える山々の堂々たる姿を 白樺の銀白に輝くボールがまぶしかった。 どこまでも青い空に

たが秋風にふかれて快い香をのこしていた。 リュックの重みが背中に密着して快かった。 あの音がいまでもはっきりよみがえってくる。

'n.

ちくしょう、もう少し時間があったら---終了のペルが鳴る。

ぼくのからだは汗でビッショリ。

五〇分間の紛争は終わった。

雪

Ξ

平-

松

朝起きてすぐ窓を見た

雪が屋根に少しばかり積もっていた

それは何となく強そうだった 何となく、その白い雪はかたそうだった

ちょっとでもふれると 枯れ木にもふんわりとのっかっていた 私は外へ出てみた

ギュッギュッという声だった。 次に私は雪の声をきいた

その純白の雪は何よりも柔らかそうだった パサパサと音をたてて落ちそうな雪だった

私にはまた、もう一つの声がきこえてきた それは私に踏まれて痛いといっているようだった。

ちょっぴりリズム感があり

井 栾 <u>-j-</u>

秋

Ξ

年

木

村

早百合

みんなが知っている そして待っている

やがて米る秋を

それがどんな様子をしているのか 目らそれを感じとれるたろうか

そんなことも何も知らない

それでも待っている

若く疑いを知らぬ魂にはそれで充分なのだ やがて来るだろうと何かが叫ぶから――

数限りない無限の生命を育てる黒いやわらかい大地 まだ幼なかった自分

そう、何もかも活力あふれるものに変えてしまうような そこからあふれ潤す泉のように

純で消い

健康な情熱

幼なかったときの自分 それにおおわれ、それにひたっていた

春の香と快い微風に酔っていた自分

何となく楽しいといっているような、そんな声だった

真冬になったら

もっと多くの雪の姿が

いろいろな形で私の前に現われてくるだろう

そして、やがて脱皮していった

ギラギラと照りつける太陽

= 年

短

歌

見れば一輪赤いバラ はずかしそうにうつむいて咲く

阪 本

由貴子

手をつなぎ、みんなで走ったなぎさには夏の思い出みちあふれたり 荒 Ш 知

子

その中を波をけたてて走る自動車

夏と秋の間に降る雨

土

方 信

雄

だれが捨てたかパンきれを無心にあさる쓑二・三羽

水たまり

畑

夫

湯気の立つ黄色い真珠のとうきびを口にふくめば秋の味する 谷 裕

熊

そして待っている

やがて来る秋を

×

×

×

みんなが知っている

別の自分自身を創造していくだろう。

幼なかった時、与えられた自分の姿とは

自分自身を創造していくだろう

そして、再び

それでも満足して

自分をむかえた秋という革命家に身をゆだねるだろう

それまで歩んで来た道に どんなものかを知っている みんな、秋が自分にとって

こけむすのを見やりながら

でも、やがて進んでいくだろう

私たちはまだ、そこを進むべきか否か迷っている

まっすぐ突進していった

固くて白く乾いた広い一本の遠方への道を それによって化された厚い白壁のように

やがて来る秋を待ちながら

どこまでも

淵

田

雲また秋の陽ざしがもれて

修

'n

やっている時ボールがぶつかってくる。せまあとは自由時間なので青柳君と卓球をした。

い所でドッチボールをやっているからであ

でみんなでたべた。便所に行く時でもみんな

5

船見中の山崎君がおかしを持ってきたの

作

「青年の家」にはいり先生の注意を聞いた



文

る。食事の時間なので卓球をやめた。汗がす

作

14-

一年 塩 田

保

青

だそうだ。 だそうだ。

文 ていた。「青年の家」はとても大きい。レン文 ていた。「青年の家」はとても大きい。レンでおどろいた。それに景色もよく見える所にでおどろいた。それに景色もよく見える所に

こ。 とくでてくる。だいたい二・三時間できた。食どでてくる。だいたいこのはんをかえず、かがグーグーなっている。 自分でおぼんに乗なんだか最初は落とすかと思って 不 安 だっなんだか最初は落とすかと思って 不安 だっという

夕食の終わったあとレコードを聞いた。音りとはいってくる。デバートよりも五稜タケーの方がよく見える。五稜タワーは、青白く見える。

なる時間がきてもぜんぜんねむれなかった みんなもそうらしい。立って歩いていたら先 みんなもそうらしい。立って歩いていたら先 みんなもそうらしい。立って歩いていたら先 なっトについている電気をつけてまた話し始 めた。青柳君は自分のズボンをぬっている。 やっと ない終わったので青柳君もさわぎ始めた。先 ない終わったので青柳君もさわぎ始めた。先 ない終わったので青柳君もさわぎ始めた。先 ない終わったので青柳君もさわぎ始めた。先 ない終わったので青柳君もさわぎ始めた。先 の話をした。この話はとてもおもしろかっ の話をした。この話はとてもおもしろかっ

は青柳君とぼくしかおきていなかった。もはいって話をしたりした。夜中の二時ころもはいって話をしたりした。夜中の二時ころでいった。そうっと歩いてもひびくので気を

朝六時に放送がはいってみんなおきた。夕朝六時に放送がはいってみんなおきた。 さんぼである。 これはすきっ腹にこたえる。 さんぼである。 これはすきっ腹にこたえる。 さんぼである。 これはすきっ腹にこたえる。 しい。 港にはもう船がいそがしそうに出入りしい。 港にはもう船がいそがしそうに出入りしている。

明食のあとレコードを聞いた。そこへ前からとまっている明治大学の生徒がきておどり たさた人らしいがおどりもじょうずだ。 にきた人らしいがおどりもじょうずだ。 にきた人らしいがおどりもじょうずだ。 にきた人らしいがおどりもじょうずだ。 にきた人らしいがおどりもじょうずだ。 た。けいけんのある人がさきにテントをはってみた。ほくたちもはってみたがなかなからまくはれない。ぼくもキャンプにいきたいなと思った。キャンプの話をしている時、明治大学の人たちが帰るというので応えん歌を歌って帰っていった。ぼくたちもあと一時間くらい

文

あったらまた行きたい。

だったけれどとてもおもしろかった。機会が りの電車の中で青年の家がみえた。一泊二日

いよいよ帰る時間がきた。みんな別れて帰

作

鮎 Ш

静 子

九日の日、私は、祖父遠といっしょに熊石の

や手を、くさりでつながれて土かた仕事をし 人を見た。その人選は青い服を着せられて足 でほっとした。又、そのとちゅうに私は、囚 心配していましたがぜんぜん酔わなかったの した。そこには、車で行ったので酔うかなと つみをおかして来た人でも、ちょっとかわい ていた。それを見たとたん私は、いくら重い 鮎川という所まで、九日間遊びに行って来ま

車は働きそのまま鮎川までちょっこうしてい **貫うことで、又すぐ車に乗りこみました。すぐ** く入っていたいと思いましたが時間がないと す。なんともいえないよい気持ちです。しばら した。冷たい水が私達の足をなで て 行 き ま やがて、私達一行は車をとめて川へ入りま

そうな気がしてきました。

ぎです。 けです。よく酔わなかったなあと今でもふし が動いている間じゅう私はぶっとおし食べ続 線的風景がひじょうによくみられました。車

戸をあけた。そのしゅんかん。「あっ静ちゃ して車にブレーキがかかり、私は一番初めに のうれしい気持ちを今でも覚えています。そ うに」と、

思わず声が出てしまった。その時 っぴりはずかしいなあと思った。 んだ」と幼い文ちゃんが大声でいった。ちょ のが見えてきました。「あっ見えた、ほら向こ しばらくすると前方に見覚えのある建ても

た。こはんがすむとさっそく水着に着かえ 私はのんびりねてるのにふしぎなくらいだっ しているうちに、いつかぐっすりねむってい で修学旅行に来たようだった。そんなことを んをかぶっても、なぜかねむられない。まる かねむられなかった。目をつぶっても、ふと た。朝は、とっても早くおきれた。ふだんの その夜は、うれしくてうれしくて、なかな

よならをつげてかえって来た。

った。車の窓からは、美しい海や山などの直

ばかりいた。やがて涙もとまり、 しくなってなにもいえなくなり、ただないて れた。とってもやさしかったのに、ああとう だった、おばあちゃんも私をかわいがってく て体。私はいとこの中で大のおばあちゃん子 りの言葉でいっぱいになった、私の頭・心そし まだ若かったのにどうして」と、なぜかいか も又、静子がおまいりに来ましたよ、元気で 手をあわせておがんだ。「おばあちゃん、今年 きたばっかりの新しいおはかは気 持 ちが よ とう死んじゃった、そう思うとなおなおさみ とへ流れてきた。「どうして死んじゃったの すから安心して下さい」と、心の中でいのっ ん違と祖母のおはかまいりにいった。今年で てお盆になったので祖父やいとこや、おばさ ようだった。だがそれも又おもしろい。やが た。しらずしらずに涙がほほを伝わって口も く、きれいだった。私は、みんなといっしょに おはかにさ

うに楽しかった。 思い出深いところだった。この九日間ほんと 海へ行ってまっ黒にやけ、山へ行ってはへび と出会い、走って坂道をおりて来た、そんな ともわかれなければならない日が来た。毎日 それから数日して、たのしかったこの土地

3

いく日も続いていたのでだんだんあきてきた つも昼すぎにやるようになった。こんな日が さわやかに気もちよく感じられた。勉強はい て、急いで海へ行った。塩のにおいがとても

年 海

子

和

枝

Ś

るなら、会いたくなかった。会うのがこわか て私をおどかした。私は、もしかしてそうな 目に会えなかったらどうするの。」と、いっ おれたという知らせが来たとき、母は、「死に だなんて、二十六日の日、おじいちゃんがた はうれしかった、でもお医者様の話では二・ ったのである。だから、意識を回復したとき 三日しか持たないそうである。母さんはまよ まだ、信じられない、おじいちゃんが死ん

をかけにいった。母さんもおどろいて、「今 に来た。私はあわてて母さんのいる所へ電話 すぐそっちに帰るから待っていなさい」とい った。私は、次に姉の所へとんでいった。ま ードを聞いていた時、ブラシ店の 姉 さん が 「おじいさんがなくなったそうよ。」と言い |・二日たったある日、親せきが来てレコ

ったが、一応家に帰って来た。

を、こんなに近くで見たのも、こわかったのも

顔、血の気のない顔、冷たくて冷たくて、死人

いちゃんの顔を思い出した。あの青い、宵い

になった。あわてて他のヘやに入った。おじ

いようである。私も「うっうー」と泣きそう

作 話して帰って来た。家には母が帰って来てお り、出かける用意をしていた。「三・四日は、 **帰れそうもないから衣類や、勉強道具も持ち** なさい。」と言ったので、すごい荷物になっ だ、補習のまっ最中だったが、先生にわけを

> り、おせんこうのにおいとみんなの泣き顔が 家に入るなり何かへんな感じがした。やっぱ 一番いやだった。母さんは、おじいちゃんの ったが、ようやく、くねべつについた。大沼 た。あいにく汽動車が混んでいて楽ではなか

て言った。なみだがポロポロ流れてとまらな 顔を見ながら「これ、もう息しなくなっちゃ ん、かわいそうに。」と、何回もくりかえし って宵い顔して、かわいそうに、おじいちゃ

あった。いつかは自分もああいうようになっ だという気持ち、おそろしいような気持ちも はさびしいけれど、これもどうすることもで おじいちゃんとよべる人がいなく なっ たの ゃんの年は大十九才、今では短い命である。 おきたり、生活をしていたからだ。おじいち ゃんは特にそうだ、まる七年や八年をねたり 人間は、みじめだなあとおもった。おじいち てしまうのだと。何かさびしい感じである。 はじめてである。 おじいちゃんがかわいそう

当別へ行つたこと

田

典

子

運転手なので車で駅までおくってくれた。駅 うとさそいに来た。となりのおじさんは車の 時四十分まで五稜郭駅に集まるので大変あわ ておそくねたので朝早く起きれなかった。七 別へ行った。その日の朝は録っていてにわか 乗らない。 たちらしい人が固まってたくさん来た、私た には分区の人たちが誰も来ていなかった。母 浮きぶくろや水めがねなどを用意していた。 てた。母と私はおにぎりをつくり、弟たちは とがっかりした。前の日の夜は用意などをし 雨も降っていた。私たちはせっかく行くのに ちはほっとしたが八時をすぎてもまだ汽車に と言ってそわそわしていた。やがて分区の人 ととなりのおばさんは「ないのかしら」など た。しばらくたつと、となりの女の子が行こ やがて朝食をとったが、あまりたべれなかっ 八月一日、八幡小の田家の子供会で渡島当

てほんとうにばからしくなった。汽車は一両 七時四十八分までに集まれなんてはやすぎ い たら 八時半だと役員 みたい人が貫った。 いったい、何時にのるのだろうと 思って

きない、おじいちゃんは今、ねむっている。

文

窓をあけてと言い、あけてやるとおおはしゃ となりの男の子はいすにすわると同時に私に が、二組のいすをとることができた。うちの 目だった。私たちが乗ったのはおそかった

思っていたら、ますます降ってくる。にくらし 降っていた。当別に葤くまでに晴れるかなと りが時々はいってきた。外はまだにわか雨が ぎであった。汽車はふつうの列車なのでけむ

何かを含っている。耳をすまして聞いてみる 分ぐらいで着いた。まだ雨は降っているが、 い雨だ。小さな駅は飛ぶように過ぎ、四十五 な家があった。そこの前で男の人がさかんに 一行は海岸へむかった。その途中に古い大き

> して又はいった。こんどは小魚をとろうとし りおにぎりを食べたり、くだものを食べたり

岸へ 新いた。 とびっくりした。歩いて十分ぐらいすると海 んでいる。私たちは「あれが公民館かい。」 **着いた時はだいぶひき潮だった。私たちの**

と「公民館でお休み下さい。」とさかんに叫

山いると聞き、ビニールの袋を持っ て 行っ 供たちを連れて海へはいった。とっても冷た のはたいへんだったが、もうすこし行くと沢 た。始めは、かにややどかり、つぶをさがす かったが、水がすき通るようにき れい だっ 泳げなかった。 さっそく弟たちやとなりの子 行った所は岩浜だったし、ひき潮だったので

> いる。 らいついている、やどかりもかにもたくさん た。大きな岩をはぐると大きなつぶが十個ぐ

の所へ行ったら、母もおばさんも目をまるく の袋がたちまちいっぱいになったので母たち となりの男の子は大喜びだった。ビニール

さんあるね。」と言っていた。やがて昼にな も取りに来た。おばさんは「ほんとうにたく しておどろいていた。しばらくすると母たち

る。」などと言っていた。 かない。母は「団体ってこれだからいやにな て二時どろ乗った。汽車に乗って三十分も助 みんなしはじめたので母もやり始めた。そし とができた。一時半ごろになると帰る用意を は頭にきたがタオルでようやくつかみとるこ てきてかんに入れた。そして弟は「おねえち たがなかなかつかまらない、弟が小魚をとっ ゃんにつかまる魚がいるかな。」といった、私

してから帰った。 た。母たちはスーパーマーケットで買い物を

×

×

おそう式が終わるまで

鍋 雅 信

中央バスに乗り、旭川へ萧いたのが、四時近 く、いつまでもここにいたかったのですが、 ルへ行きました。やっぱり札幌は なつ か る声などは全然きこえませんでした。(離睦 列んで下さいと放送された。 離陸できるかわからないと言ったが十分ぐら の横でおりて、まっすぐ中央バスタ ー ミ ナ してから)札幌に着くとバスに乗り、五番館 いして、札幌行の人はかいさつをしますので てからしばらくして、きょうは襞が低いので て、家を八時四十分ごろ出た。飛行場に羞い 機内はとてもうるさく、人のしゃべってい 七月三十日、おとうさんと旭川 へ 向 かっ

くれました。それに、おばあちゃんをおかん にいれないでまっていてくれました。 く、おりた所から車に乗りお寺へ。 お寺に着くとみんなぼくたちをでむかえて

行きました。その時病気の名前を聞くとすい 様で百人の中で九十九人はたすからないとい た。このすいぞうガンというのは、ガンの王 ぞうガンですといったのでビック リ しま し おばあちゃんに別れを告げて、ひかえ室へ

んでした。お参りが中間になると足がしびれ

ちは手を洗い中へ入りました。

お寺に羞くとみんながまっており、ぼくた

うんです。その時分からやっとおばあちゃん が死んだという実感がわいてきました。五時

ぐらいにおかんの中に入れ、本堂へはこび、

きました。とこやでも、おばあちゃんがなく とこやへ行っておいでといわれたので行って お教をあげました。そのときおと うさんに なったことを話していました。

人いました。

時間ほどお参りをしておつう夜は終わり、ほ まり、お寺さんが三十人位きていました。二 帰って一時間ぐらいすると、おつう夜が始

っと一息つきました。

こはんがすむと、ぼくのいとこの昌熙にいち らすぐ帰ってこいと言ってきました。それで さんから電話がかかり、みんなまっているか なったので、横になっていたらそのままねむ たお寺に帰るつもりだったのですがねむたく ってしまいました。よく朝七時半ごろ、おとう 終わってしばらくしてから本家に行きまし

なかったのですが、お経が始まる とだん だ ん目になみだがたまり、とうとう泣いてしま い、いくらとめようと思ったってとまりませ 堂へ参列しました。そのときはなみ だ はで 十時からおそう式が始まり、ぼくたちも本

帰りました

ゃんにオートバイで送ってもらいました。

でした。中には女の人やまだ若い人が五・六 べて、お寺さんが四十人以上もきていたこと おどろいたことは、きのうのおつう夜にくら てしまって、あぐらをかいてしまいました。

おそうしきが終わると、おかんに釘を打つの 音楽を演奏したのを見たのは始めてでした。 した。その中で、かん主さんがきて、変わった 約二時間半、お経その他の儀式を終わりま

です。

それにしても、おばあちゃんが九月ごろ函

んな歩きました。お棺を運ぶバスに乗って焼 いと言ってきたので、お棺のあとに続いてみ た。釘を打ち終わると出棺の用意をして下さ その時もなみだが出てとまりませんでし はぼくたち男の子でしました。

場へ向かって走った。 置くとおばあ ちゃん 二時間ぐらいで焼いてしまうと含っていまし に最後のわかれとお参りをして、焼 器 の 中 へ入れました。この機械はむかしとちがって

などはくだけて、ガンにおかされていた内臓 きれいにひろい、又乗ってきたパスに乗って だけは焼けずに残っていました。みんな骨を た。焼いたあとを見ると頭のほねや手のほね

それから又お参りをしておこうたき、全部

こなかったのは、ぼくたちが札幌から函館に **うつってくるとき、おくりにきてくれたから** これで終わり、ほっとしました。 おばあちゃんが死んだという実感がわいて

館にくると言ったので、まっていたのに…… る本堂が出き上がるのを見たかっただろうと おばあちゃんの心残りなことは、今建ててい

思う。ぼくはもう会えないと思うとガッカリ したようなさびしい気持ちになりました。

私の阿寒旅行

年 橋 久利江

だか少しおおげさだ。 私もへんな気もちになって手をふった。なん かいていっしょうけんめい手をふっている。 二時少しすぎに函館を出発。 **妹がたった五日間の旅なのに、なきべそを**

ず、おかしくなってきたので母と笑った。 ちっともこれから旅行するよう な気が 汽車はいつも見なれている所を通過。 뇬

.

い、とてもやさしそうなおじさん だっ たのおじさんがきいた。さっきから見ていたらししばらくして「どれをやっているの?」前の七番の問題がなかなか解けなくてこまった。

に少し残してしまったからだ。そのうち七十

旅行前にやってしまわなければならないの

汽車の中で数学の勉強をする。

で、いろいろ話をした、七十七番は巫立方程式

で解けるそうだ。三十分くらいたってなるほ

ど連立でできた。

知らないうちに母とおじさん が 話 してい

そう、物理とはなんだかわからないが、数学そう、物理とはなんだかわからないが、数学にも少しは関係があるらしい。 おじさんは小樽でおりた。

にかかっていて第一印象は少し陰気だった。まだどこの店もあいていない上、霧が一面そのまま寝て次の朝釧路に斎いた。

せっかく仲よくなったのに私はざんねんだ

カナフミの棚の中に羽を切られた丹頂鶴が丹頂鶴自然公園に向う。

があまり感心しない。一人の観光客が八羽ほど、自然的にくふうをした大きな棚だ

に……。」と言った。「こんなことで見せものにされてかわいそうかあまり思心したい」一人の観光楽力

羽をひろげてキョトンとしていた。うみたいな顔で、しかし白鳥のような美しいでも丹頂鸛はかえるみたいな声で、だちょ

繋が晴れ宵空が顔を出してあたりが迫ってやがて阿寒湖に着き、そこでおりる。一生懸命なのでまたたくまにバス発車時刻。もっぱらどのお客さんもこの鱗を写すのに

みたいな厚い服、ハチマキみたいなもの重い一母と二人で少しすましてみたが、オーパーそこでアイヌの服をかりて記念写真。くるように明るくなる。

そうだ。

た。六センチくらいのマリモで二百年かかる

首かざり…汗びっしょりだった。

雄阿寒の深緑色のドッシリした山はだと黄い合っている雄阿寒、雌阿寒の夫婦山。る、でも阿寒湖は最高だ。阿寒湖をはさみ向遊覧船はおっ年十和田湖で乗ったことがあすぐ遊覧船に乗る。

すばらしい。 する雌阿寒岳、その横に阿寒富士、とってもする雌阿寒岳、その横に阿寒富士、とってもまたピンク色の地はだを出しさかんに活動緑がかった太陽に光る湖がよく調和。

わった。へ、カノラを一時もはなさないでかけずりまへ、カノラを一時もはなさないでかけずりま

トの小さい池が三つ……。 おりな金魚ばちみたいのが三つ…コンクリーような金魚ばちみたいのが三つ…コンクリモを見るのかと思っていたら、熱帯魚を入れるを見るのかと思っていたら、熱帯魚を入れるといるではあくしてマリモのある小島に着く。

さわったらビロードみたいだろ うと 思っ入っている、色はマリモようかんと同色。から、三センチくらいのマリモまでいろいろかの、三センチくらいのマリモまでいろいろ

横断道路は実にスリルまんてん、チラチラするまま、またバスに乗る。

まわるほどはるか下の方に……。まれるような深い谷!これから通る道が目の曲りかど、右はものすごい絶壁!左はすいこ曲りかど、右はものすごい絶壁!左はすいこ

むろんこれは湖の名。 ここからはひし形のペンケトーが見える、あっというまに双湖台についた。

a.

'n

文 第一、第三展望台という所はともに霧で全 次の日美蜆行きのバスに乗る。

神秘の湖摩周湖もとうとう見ることができな

然見えない。晴れた日はめったにないそうで

どんなに美しいだろうと思っていたのに…… 屈斜路湖は摩周湖よりグット下にあるので 世界でもトップクラスの透明度と言うから

まあだいたいよかった。

う。ためしにそんな所に手を入れてみたらひ 場はただの湖岸とはちがって砂をほれば湯が にじみ出る。それがおもしろい ほど 出てく る。一メートルもほればりっぱなお風呂だろ 中でも一番感心したのは砂場だ。ここの砂

う冒葉をつかいたいのだが、くどいのでやめ

できることならもっとこのすばらしいとい

母は横断道路も双湖台もいねむりですごし

の宝石をはめこんだようなすばらしさ。

私が感じたところでは台地の割れめに脊色

ている、ゆりおこして双湖台のことを話した 実にざんねんだ. 母の分もよく 見て おこ どくあつかった。 函館にもこんな所があったらなあ…なんと

なくこう思った。十七センチほどの穴に湯が

ゆげをふいてたまっていた。さあもうバスは

が、じきすぐねむってしまった。

出発だ! 湖の前方にぼたもちみたいな半 島が 見え

け黒い、でも着いてみたらそんなにいい所で もなかった。 た。うっすらと霧がかかっているのにそこだ

屈斜路湖に来る前に行ったのだが、新いた その前に硫黄山について話しておく。

イソツツジなどあっさり忘れてしまいそうな とたんに硫黄のにおいがツーンときた。 ここにはめずらしいハイマッとかエゾシロ

らしかった。 **うにしげり、山が七色に輝くようで実にすば** 長い名の植物があり、白カバが先をおおうよ

も知らないと思うからだ、早く見せてやりた

い悪質な霧、ぜひ…と思っていたのに頭にき 阿寒唯一の美幌峠は十メートル先も見えな

た ヌのペンダントにすればよかったと思った。 た。そのあとは終点までずっとパスの中で寝 友だちにはコケシを買ったが、後からアイ 美幌ではおみやげをいっぱい買った。

寒で買ったコケシです。」とはっきり言って から上げようと思った。

今さらどうにもならないので上げるとき「阿

見当たらない。 の少ないこと、高いこと。それにデパートも トマトは百グラム最低十三円、くだもの、野菜 円。函館では百グラム五円で売っているのに ここでは質の悪そうなパナナが四本で二百 夕方網走に澄く。

げんあきがきた。 なかった。六時間近くもブラブラしていいか 町中ガランとして暗くてほんとうに活気が

いるのでさっそくデバートに入った。 に羞いた。デバートがない町にはあきがきて 汽車では何も考えずに早く寝て次の朝札幌

えりちゃんのおもちゃを買って、私のマス

友だちのために写真にとった。たぶん友だち

ハイマッは名だけしか知らなかったので、

次には双風台でとまった。

ここでは阿繆湖をはさんで向かい合ってい

る。山が生きているようでおもしろかった。 たはずの雌阿寒、雄阿寒岳がよりそって見え その日、弟子屈に着きそこで半泊。

釣をしていた自衛家の人といろいろ話をし

かった。

作

コット人形に人形用のソックスを買ってやっ

文

そのあと食堂ではでに食べた。

い所だ。 で時々雨の音とまちがえドキッとするが、い んびりする。ちょうど宿のすぐ近くが沢なの 弟子屈は半泊だったがここは一泊なのでの いろいろ雑用をして汽車に乗り定山渓へ…

み、キャンプファイヤーのまねをしていた。 旅行生らしい子どもたちが宿の横で火をかこ うで見物に外へ出たが、山中の小学校の修学 なごやかさだ。 おどる、思わず中へ入って行きたいくらいの 先生と好きな歌を歌い、フォークダンスも 夜はちょうどカッパ祭りという祭があるそ

歌いながら一人ずつ消えてゆく、 ちょっとし んみりしてしまった。 **最後には「また会う日までさようなら」と** カッパ祭りは今回が第一回目だそうでなか

✔ケッケッケッとおどり出す ケッケッケッと定山渓 かっぱのおどり

なかおもしろい。音楽がリズムカルで

踊らぬやつはきもぬくぞり

るあの歌、さんざんうかれて九時半に宿に帰 りのちょうちんや、どこに行っても流れてい 町ぐるみの祭りでひようたん型の色とりど この最後のくりかえしがおもしろい。

ジュース三本、サイダー一本飲む、それでも 函館行きライラックに乗った。 た。川と山の町だけあって美しい。 り、すぐねた。 で助かった、とちゅうですごくのどがかわき 指定席は片側だけの席だったので遠慮なし 昼すぎ三時の汽車で札幌へ、そこからすぐ 少しおっとりした感じもする風景だった。 次の朝は宿の下の沢に行って川 を写 生し

いたし、天気もよくなっていたので、「きて

七重浜につくと、案外たくさんの人が来て

しかし虫の多いのにはへいこうした。

すばらしさ。 阿寒のすばらしさよりもうんと深みのある 函館はなんてすばらしいんだろう。 駅から出て外を見た時こう思った。 ているうちに函館についた。

たりなくりんごをさがしたがそんなことをし

あ」.... 深こきゅうしてから大戸で「函館はいいな 私の住んでいる所だからかしら?

い」…… しみじみこう思った。 そして家の前に来た時もう一度 「いろいろ見てきたけどやっぱりここがい

海 水 浴

年 町

光

恵

とにした。 ど、友だちがむかえにきてくれたので行くこ 友だちと七重浜に行く約束をした。朝、少し くもっていたのでいかないつもりだったけれ 八月十七日、夏休みもあと一日という日に

とにした。 そく海に入った。とは言っても私と野々宮さ 遊ぶだけ、平田さんにるす番をたのんでさっ **う男の子たちにとってもちったので、あとは** 平田さんたちが、汽車の中で知り合ったとい んは泳げないし、ただ見ているのはつまらな 科学の課題で貝の採集をすることだったが、 さんだけが泳ぐことになった。私達の目的は すれてきたので、私と、朝風、野々宮、本谷 よかった。」と思った。平田さんが水労をわ いから本谷さんに泳ぎ方をおしえてもらうこ

ばして。」と基本からならったが、どうして 所で適当にパチャパチャやっていた。本谷さ も浮かばない。しょうがないので、手がつく 「からだの力をぬいて、手足をまっすぐの

8

の練習をしたりしているうち、おなかがすい んたちは貝をとってくれた男の子と競争して いた。男の子をからかったり一人ずつバタ足

るのでちょっぴり不安だったが、みんなにつ

男の子たちがたき火をたいてくれたので少し てきたのでいったん上がって昼食をとった。 て、私は柱につけなかった。「オレちゃんと いて行った。やっぱりみんなアップアップし ついてきたよ。」という朝風さん。

おしゃべりをして、今度は浮袋をかりてもう 一度海に入った。浮袋があるので私たち三人 夏休みの楽しい思いでになった。 いろいろあぶないこともあったけれども、

『ピーター・パン』

男の子二人でつかまってかわりばんに引っば

年

高 昭

江

ろの夢がある。 「ピーター・パン」——そこには幼いこ

ラブでは一ヵ月も前から計画を立てた。文化 祭こそ美術クラブの腕の見せ所なのかもしれ 十月十六・七日の文化祭のために、美術ク

だったろう。

なくなってしまう、なんてもったいないこと

ようなものといくつかさがし出して決まった が決まらず、童話の中からひと目見てわかる ザイクを作ることに決めた。何を題材にする かが問題になって、いろいろ案を出し合った 私たち奥田さん、庄司さんと私の三人はモ

> いになってしまった) おかげで私の新しい消しゴムは四分の一くら いかない。しかし、どうにか出来た。(この

し下に下がっているよ」とかなかなかうまく

持ってきても普通の家庭で食べる虽は知れて 次は、その上にはる玉子だ。三人の家から

指先きなどについてしまい、指先きは感覚が どうもありがとう)玉子をはる接着剤もお金 ラブの人、また近所のお菓子屋さんから**--**がかかる。しかも、そのうちの半分くらいは と、いろいろ助けてもらった。(みなさん、 いる。全くたりない、そこでクラスの人、ク

らない、ブッブッ言いながらやった。 さんと私は庄司さんの分までやらなければな で充分日数があるというので、おしゃべりを がかぜで休んでしまった。こうなると、奥田 のん気なものだったが、そのうち、庄司さん したり、時にはバレーボールをしに行ったり やり始めのころは、それでもまだ文化祭ま

このころで、四人ですることになった。帰宅 熊谷さん(通称クマちゃん)が加わったのは いしか日数がなくなって、もう一生懸命だ。 そうこうしているうちに、あと二週間くら

作 から男の子を浮袋にのせてひっくりかえした り、水をかけあったりして遊んだ。 ということになった。私はさっきのこともあ 又とびこみ台まで行って柱についてこよう のが「ピーター・パン」である。 「頭が大きすぎるよ」とか「その手はもう少

この下絵をまずベニア板二枚に掛くのだが

ん前に進まなかった。その時はほんとうにび

したら空に浮いているような気がしてぜんぜ

ない。

あわてて男の子の手を引っぱってもどろうと 番背が高いのだからほかの人はとどかない、 プしておぼれるかと思った。 なにしろ私が一 いになってしまい、野々宮さんがアップアッ てこようとしていったらきゅうに私の首ぐら とびこみ台につくというので、ちょっとつい た。私の胸ぐらいある、あと二・三メートルで ったり、泳いだりした。だんだん深い所に来

っくりしてしまった。手で水をかいてやっと

胸ぐらいの所までもどってきた。「もうぜっ

たい行かない。」その時はそう思った。それ

星のきらめく空を見ながら帰った。(ちょう ど科学の授業で「天体」をやっていた――)

時間も七時近くになったろうか、帰る途中は

る

文化祭まであと一週間、まだ出来上がらな

たちはあわてた。玉子に色をぬり、それをか

い。それに玉子も品切れになってきたし、私

作 で行き来して、足がそれこそフラフラとよろ 食べることだけはぬけ目がなかったようであ 家に帰るのが遅いので、パンをかじりかじり めきそうになったこともあったが、それでも わかすのに一日に何回となく一階から三階ま

強かった。しかし、とうとう玉子がなくなっ ないので紙のうらに色をぬり、それをちぎっ どうしょうもない気持ちになった。しかたが きながら玉子がなくなるなんて――」もう、 てしまった。「せっかくここまで仕上げてお

ž

過ぎたろう、作業している最中に先生がたが

三日前、まだ出来ない。帰宅時間は八時を

いちしてことばをかけて下さるのがとても心

て、もう心が躍った。もう少しだ。 たり、 近くから見たり、 斜めから 見 た り し しかたがない。だいたい出来た、遠くから見 てはっていたが、なんだか変に感じた。でも やっと出来上がったのは文化祭 前日 であ

「バンザーイ、ヤッホー」

してきた。あわてたので近くから見ると穴だ で完成したのだと思うと、なんだかジーンと 私たちが一カ月もかかったモザイクがこれ

の空を飛ぶピーター・パンのように、私だっ い。けれどそこには幼いころの夢がある。あ パン」では少し子供じみていたか もし れな 計画に無理があったようだし、「ピーター・ まアというところ、きれいに感じられた。 らけだけれど、それでも遠くから見るとまア このモザイク、大作に過ぎたのはちょっと

最も大きなそして、よい思い出となるだろ 夢が少しはここに再現できたようだ。 この一ヵ月の出来事は、私の中学校生活の

て空を飛んでみたいと思うことがある。その

私の友だち

手紙です。私は十三歳の少女で中学校へ そしてこれは、私のはじめての海外への 「はじめてあなたにお手紙を掛きます。 花 田 初

行っています。私があなたを知ったのは

ずか二ヵ月で、英語のエの字も知っていなか うか、と、その日一日考えたものでした。 て、最初の手紙にはなんと母いたらいいだろ 女を紹介していただいた時はとてもうれしく 思っていた時でしたから、英語の先生から彼 った時でしたから、それから二週間、私は教科 いる文通のはじまりでした。 でもその時の私は、中学校に入ってからわ これが、私とジュリアの間に三年間続いて その中の一人があなただったのですー」 私はぜひ外国の友だちと文通してみたいと ちを紹介して下さったからです。そして 先日英語の先生が幾人かの外国のお友だ

母や英語辞典をめくり、先生の所をかけまわ って、ようやく一通の手紙を掛きあげまし

るような気持ちで、その手紙を出しました。 ポストに入れる時の私の気持ちは複 雑 で し た。「もし返事が来なかったら――」私は祈 うす緑の目をしています——J なたと友だちになることをとてもすばら その手紙を白い封簡に入れ、切手をはって しく思います。私はあなたと同じ十三で でも彼女の手紙はすぐに届きました。 「親愛なるペンフレンド、私は日本のあ

美

ڈ

はきっとよい所でしょう。そして私もまた彼 女が日本に来ることを望んでいます。きっと

日本の美しさに驚くことでしょう。

私たちは今、二人とも文通してよかったと

ぎと頭に浮かんでくる。

やロビイ(ボーイフレンド)の住むイギリス

こしました。私もそれを望んでいます。彼女

イギリスへ来なければならない」と書いてよ でいます。彼女は「あなたは将来ぜひ私の国

私たちは互いに何年か後に会うことを望ん

私たちはいろいろなことを書きあいますが 先日も彼女から手紙がきました。 これが彼女の返事でした。

、でもやさしいところもあるようで、よく私 横線がなかったり、≠i≠の点がなかったり いちばん話題になるのは、 お互いの 国のこ の手紙のまちがいをなおしてくれます。 あわてもののようです。というのはりもりの いのですが、私の見るところでは彼女は少々 フレンドのことなどです。 と、将来のこと、そして学校や彼女のボーイ 私たちは手紙を通して互いに得ることも多

Ш

つまでも信じたいと思います。

しょう。私は、海を越えての彼女の友情をい

私たちのこの文通は、この後何年も続くで

美しいクリスマスカードをそえて。

さあ、彼女の手紙に返事を哲かなければー

Ξ 年 庄 可 明 代

気さえしてくる。そして、どこといわず、一 は何一つ悪を知らず、苦というものを知らな る、山裾にのどかで平和な村があり、そこに い。でも、春から夏にかけての山などをじっ 見ながら学校への道を急ぐ。どうして私が山 ずりまわっている景色が――空想が、つぎつ 年中草花が咲き乱れ、小鳥が楽しそうにさえ い善良で心の美しい人々が住んでいるような と見ていると、何かのおとぎ話にでも出て来 を好きなのかは私自身もはっきりとわからな 私は、毎朝かならずといってよいほど山を

やさしい気持ちを中にひめているような、そ は、母親が可愛いわが子を愛情のこもった、 んな崇高な姿を描写する。 その全景にやわらかな影をつくった時の山

> ると、今までとはうって変わって、寂しそう ところが、その山もいったん天侯が悪くな

で、生きることに失望をいだいた人々がただ な、そして、陰気な姿となる。それは、まる 現わしているように感じられてくる。 ぼんやりとさまよい歩いているような様子を 少なくとも私にはそう映ってくる。 このように、山はいろいろな姿を現わす。

山を見ると、私は、このごろ話題のベトナム るだろう。その戦争をしているペトナムでは 候の時の山は、ベトナム戦争にもたとえられ の国のことを思わないではいられない。悪天 その人たちは、私が美しいと感じる山々をど なって戦争の中のひとりとして生きている。 ない少年たちが、大人の人たちといっしょに が戦わなければならないかということも知ら 知らないはずの、そして何の目的で自分たち を奪い取っている。それも、まだ全然戦争を 南に分かれて戦い、何百もの老若男女の生命 同一人種でありながら、そのお互いが、北と 中でも悪天候の時のあの陰気で寂しそうな

思うのが精一杯だろう。「あの山のどこかに 敵が隠れているのではないだろうかー」と。 彼らは、山を見てもきっとこのように考え のように見、どう思うだろうか。

なのです。

作 心から思っています。彼女はイギリス、私は 日本と住んでいる所は違いますが、彼女は私

の、私は彼女の、かけがえのない友だち同士

文

私は、その人たちに早く平和な生活を営むこ

とができ、山の美しさをしみじみと眺められ

る日がきてほしいと思う。私は、これからも

ろん美しいと思う心のゆとりもないだろう。

何とあわれなことだろう。せっかく美しい山

を見ても彼らは何も感じないだろうし、もち

作る。 毎日のように、たびたび山を眺めることだろ

三年という年に

いる。「これからの三年間、悔いのない生活 のころ、日配帳にこう掛いたことを 覚えて りである。私は確か一年生に上がったばかり う。まったく漠然として根拠のないことばか 私は過去二年間どんなことをしてきただろ 村 早百合

くのだ。」と。具体的にはどう行動したらよ 手も足も出ず、生活の流れに、自発的にでは も、その通り行動せよといわれてもまったく なのだから。これはあまり愉快なことではな ない与えられた生活の流れに身をまかすだけ たりまえなのかもしれない。二年たった今で いのかわからなかったが、もちろんそれがあ をしよう。その瞬間々々を力いっぱい生きぬ と考えた。いや、正直にいうと考えようとし をしらなかった。そしてくり返しくり返し顔 た。でも私はそれをくり返すよりほかに方法 分で自分の首をしめているよう なもの だっ 不愉快になり、また投げうった。まったく自 い失望するのは自分の努力が足りないからだ というあせりとともに再び実行しようとして

て行動することを願っていた。もちろんだれ い。私はあくまでも自分の自由な意志に従っ もそれを妨げはしなかった。だから私は充分

> に感じられた。で、それを勉強にあてはめて とに対して努力するのはとても困難で不可解

ではどうあるのがよいのだろう。あること

な成果が得られるはずだった。しかしその結 うだ。 みたとする。が、それでも満足ができないよ

も自覚していた。そしてこのままではいけな 果は私自身がよく知っている、二年前と大差 はない。確かに私はこのことを過去二年間に いと胸中に感じていた。そしてまた、例の格

いないが、いずれそのあることを自らさとる 私にはまだそれが何であるかもはっきりして に向かって努力することはむずかしい。今の

行動化するために努力するのだと。私は努力 返し掛くのみだった。そして考えた。それを のかわからない決心のことばを日記帳にくり 言じみたそれを行動してどうあらわしてよい ように思われる。 時がくるまで、「じっと待て」といえばいい 時がくるだろう。今の私は自分に対してその

して、あの日記帳に思いきり掛きつづってい りこれからも、常にあらゆる自分の反省の場 今のところはっきりした目的がないのが少々 として、あるいは自分の心の底を語れる友と 自分を苦しめるよりは気が楽だろう。それよ 不安ではある。が、守れない理想をかかげて 中学校生活の最後の年がはやくも始った。

しまった。次に新たに「これではいけない」 れ、私はそのつどそうすることを投げうって あの何かを意識した不愉快な感じ におそわ うとした場合、その瞬間に感じるハッとする しようとした。だがその時、何かを行動しよ

لح 雪

こ う。

年 阪 本

由貴子

いる。北海道の雪の存在は冬に限られている。 冬が来れば雪が降る、雪が降れば冬が来て

ていた。だが努力するといっても精神的なこ

ちの生活は一変してしまう。 またそれ以上に降るようなことがあれば私た

中を買い物に急いでいた時のことだった。私 後のシンシンと静かに地上へ舞い降りる雪の 雪の事故を防ぐためだろう、クサリがガッチ それは十一月に入り、初雪が降って二・三日 の横を車が通り過ぎて行った。その車輪には て、ごく平凡なことを考えたことがあった。 ある時、私はふとこんなだれもが知ってい

与える害は少くない、けれど、それを見た時 リとはめられてあった。雪が私たちの生活に

られた。それは黙然とただ一筋に降り積もる 白雪にすっぽりとおおわれ、時おり車の寮笛 とうにしみじみとした安らかさが身内に感じ の私の心はいつもよりおおらかだった。ほん

自身のまわりを静寂と、とめどもなく降り続 何かほのぼのとした気持ちにさせられるだろ らなのだろう。私だけではなく、だれしもが く白雪でつつまれ、たたずんだなら、やはり が聞こえる町の中を一人で足を速めていたか

作 がら人々の町や村をおおってしまう。それが 雄大な姿の中に寂しさをチラッとのぞかせな のすごい吹雪となって、絶えることなくその こうして、雪はただシンシンと、時にはも

> 降りやんで、日が輝くまぶしい一日は活気に して家々の軒下にうずくまるようになると、 あふれる。しかし、その白銀が灰色と相を化

溶けてしまった冬には心細さしかない。 々にまたまた活気が与えられる。しかし雪の る。
雪が北風に乗って踊りだすその時は、人 こには雪の儚ない姿が現われ、哀れさを感じ まって、ただ寒さだけが身にしみてくる。そ もう冬の面影とか悄緒とかはかき消されてし

の ち の北海道の冬の姿なのだろうと思う。

真白く雪におおわれていてこそ、ほんとう

三 年 菅 Щ

治

命」と誑いてあった。 辞哲を引いてみたら「生活の 原動 力・生 命、命とは何か。

我々の住んでいるこの地球上には、人間の

えて失われていくことはしかたがないが、こ い命が誕生しつつある。しかしその反面、尊 命をもって生きている。そして今もまた新し ほかにもあらゆる生物が、それぞれに一つの い命が失われつつもある。自然の生命力が衰

の狭い地球でみにくい争いを起こしたり、事

Ď, 故などで失われていく命のなん と多い こと

あろうか。 うばいあっている。なぜ、人間は争いを起こ 製造され、そして戦い、いともたやすく命を めに生きているのではないはずだ。それなの るのだ。殺人や争いのための道具をつくるた に、核兵器などという争いの武器がどんどん し、こうもたやすく命を抹殺してしまうので 我々人間は、人類の幸福のために生きてい

らないだろう。武器の製造は争いのためか、 も、争いや武器がその手段として許されてよ 平和のためか。かりに平和のためとはいって **うに話を通し、歩み寄るようにしなければな** けでおさまることではない。相手にわかるよ **う。ただ争いについて反対の意見を述べるだ** 争いをなくしようとしないの か、疑問 に 思 いものだろうか。 い。しかしそれなら、世界の政治家はもっと もちろん世界の人々は争いを好むはずはな

が失われているのだ。 ずっと前のことであるが、こんなことがあ 今日もまた、武器のために多くの人々の命

学校からの俗りみち、ふと地面を見ると、

った。

文 数匹のアリが巣をつくっていた。すわってじ

のアリはそのまわりをうろついていた。石を んでその巣を埋めてしまった。すると、数匹 っと見つめていたが、いたずらげに砂をつま

取ってそのアリたちの方へころがして やる 以前にもこんなことはあったのに、なぜかし た。しかし、アリの命はもどってはこない。 行ってみたら、巣はもとどおりに なって い 二・三日して、あのアリの巣のあった所へ

リではなくとも他のいろいろな生物で――

ばらくして、そのアリは息絶えてしまった。 匹のアリが石の下敷きになってしまった。し と、数匹のアリは、一生懸命走っていく。一 こういうことは多くの人が経験しているだ

ろう、それもたぶんいたずらげに。たとえア

極端に言うと、我々人間も死の一歩手前で

ら、この時ばかりは変な気持ちに おそ われ

だいじにしていかなくてはならないと思う。 活の原動力になるものとして、もっともっと だ。そのだいじな命を我々は、ほんとうに生 とってたった一つしかないだいじなものなの さないともかぎらない。人間の命は、自分に

ぼくは考える。

生活しているように思う。もし誤って、隔た

人間の命とは何なのだろうか、と。

人間の命とは何のためにあるのだろうか、

りを越えて中に足を踏み入れた人が命を落と っていました。 とで、男ばかりの七人の子どもがひしめきあ

読書 感想文

親 指 小

津軽屋 僧

典

子

のお話です。 むかし、ある森のはずれに住んでいる親子

ことでした。 多いため、養っていくのはとてもたいへんな せまい家の中には、ふた子が三組と末っ子 お父さんは木こりをしていますが、家族が

> せん。 まだ十才では、お父さんの手助けになりま

りです。

しかも、十才から七才までのわんばくざか

っ子のことでした。

しかし、親たちにとって一番心配なのは末

した。家族の人たちはこの子を「親指小僧」 たのです。 とよんでいました。 七つになったいまでも、小さくて弱そうで 生まれた時は、親指位の大きさしかなかっ

ていることが好きでした。 さわぎずきの兄たちは、おとなしい弟をば

かにしていました。

「やい、よわむし。」 「おい、ちび。」

ました。 なんでも悪いことはこの子のせいにされてい よってたかっていじめてばかりいました。

日がすくないので、畑のさくもつはみんなく はこの子でした。 その年は、長雨がふりつづいて、日の照る けれど、兄弟じゅうでいちばんりこうなの

さってしまいました。 国じゅうが、ききんで、人びとは食べ物に

でも、この子は心がやさしく、しずかにし

れない、いっそのこと、森へ捨ててこようじ ゃないか。あした森へたきぎを拾いにいく時

みんなをつれていくんだ。おれたちだけ、こ っそり帰ってきてしまおう。」 おかあさんは、目に涙をうかべて、こっく

りとうなずきました。

ふたりがペットはいってしまうと、いすの 「さあ、おそい。寝るとしよう。」

いで子どもたちをもっとまもってやらなけれ

は、ほんとうにたのしくさせられてしまうに

登しい木こりの家では、さっそく食べてい 話をきいたのです。

その次の朝、親指小僧は、まだみんながね

かれなくなりました。

こまりました。

ているころそっとおきて、白いすべすべした

こりの夫婦は、暗いランプの下で、ぼそぼそ ある晩、子どもたちが寝静まったころ、木 石を拾い集めました。

と話をしていた。

おかあさんは、悲しそうにつぶやいていま した。親指小僧はさっき集めた石を一つずつ おとしていきました。 やがてみんなで森へでかけることになりま

見えなくなり、兄たちはさわぎだしました。 まもなく、お父さんとお母さんのすがたが

親指小僧が

「ぼく、来る道みちに、白い小石を落とし 「うそいうな、そんなことできるもんかo」 「ぼく、帰る道しっているよ。」

泣くんでしょうね。」

ちがおなかすいた、なにかちょうだいって、

から食べるものがないのよ。また、子どもた

「こまったわねえ、ギョーム。もうあした

てきたんだ、ね、ほら。」

んでいくばかりだ。.

「かわいそうな子どもたち。」

「子どもたちのひもじいようすはみていら

おしまいだ。こうしていれば、じりじりと死

「もう、お金だってない、おれたちはもう

て、ぶじに家にかえることができたのです。 って歩きました。 みんなは弟のあ とに つい 白い石を見つけながら、親指小僧は先にた

いがってやるぐらいのことをしてあげたらよ けど、小さくて弱々しかったらもっ とかわ のです。兄たちは、いつも弟をいじめている

親指小僧のおかげで家に帰ることができた

したから、親指小僧が出てきました。いまの ばならないと思います。

赤毛のアン」

年

を読んで

畑 乃里子

ド夫人もおこらせなかっただろう。 リラが「その子はだれ?男の子はどこ?」な んていわなければ、アンは、遊びにきたリン アンが「グリーンゲイブルス」にきた時マ しかしアンが反省してリンド夫人にす直に モンゴメリー

よかったのかもしれない。 ンを失望させ、リンド夫人をおこらせたのも なったのかもしれない。その点、マリラがア あやまったから、リンド夫人とアンは親しく

島に実在していたなら、そのまわりの人 々 なるのだから、アンが、ブリンスエドワード てしまうのだから大したものである。 みりこうだ。無口のマシュウもたのしくさせ このアンの本を読んでいるだけでも楽しく アンは、うらやましいくらいに想像力に富

くても、子どもをすてるような弱さを出さな いと思います。木こりの夫婦も、いくら貧し

ちがいないだろう。

アンの心が豊かになったのだろう。 私は、どっちかといえば、アンよりダイア アンの心の友、ダイアナのおかげがあって

まったく不思ぎなくらいだ。 宮な人と、ほんとうの親友になれたのだから 想像力がないのに、アンのような想像力の豊 ナの方がすきだ。だけどダイアナはちょっと やっぱり、ほんとうの親友はそんなことに

ない。

個用してなかったのだろうか? がなくなったとき、マリラはすぐアンがやっ かったのだろう。 たと思ったなんて、そんなにマリラはアンを マリラはどうしてもっとよくさがしてみな

わいそうだ。しかし、あとからマリラが反省 したからよかったなあと思った。 アンが学校へ行った時の受け持ちの先生は

そんなにすぐうたがったりしてはアンがか

ばっかりせめたてたからだ。 た時、ギルバートの目い分もきかずに、アン なぜなら、アンとギルバートがけんかをし

これだったら いくらアンでも、学校をや

気にいらない。

めたくなるのがあたりまえだろう。 もし、わたしがフイリップス先 生だっ た

も、べつにどうとも思わなかったのかもしれ イアナという友だちがいたから学校をやめて 方をばっしたと思う。だけど、アンには、ダ ら、みんなにどうしたかわけをきいて、悪い

ができたのに。 気もちはどうだろう。 せっかく仲よい友だち なくて、ダイアナとつきあえなくなった時の しかし、アンがダイアナの母に気にいられ

関係なくできるものだと思った。

マリラの大事にしていた「むらさき水晶」

つねに、そのまわりの人々も幸福にみちびい のりこえて、そして、再びダイアナとギルバ ていくアンは、たいへんりっぱだと思う。 ートとも仲よくなれ、自分だけの幸せでなく

しかし、このアンが、いくつかの苦しみを

で熱しやすいが高潔でその性格のため、真の

『カラマーゾフの兄弟』

本益 を読んで

みならずいかなる国であろうとも所詮見るこ とを知った。たしかに内容は〃ただロシアの ぼくはこの小説を読んでいろいろ新しいこ 規 メルジャコフが自分かってにイヴァンの哲学

その中には現代でも言えることが多分にふく 深刻な思想の沈潜々であるにちがいないが、 やこの世の限界を越したかと思われるほどの **うな常軌を逸した感悄や埒を踏み破った欲望** とも聞くことも、体験することも出来ないよ

ものだと思う。特に「神と悪魔の戦場」とも カラマーソフの広範な性格はとてもふしぎな 二つの深淵を同時に見ることが出来るという いうべき心を持つ長男ドミートリーは、狂暴 まず第一に驚いたのはその深刻さである。 まれていると思う。

世の人間苦をすべて引き受けたい、なくした が、予審の時みた「餓鬼」の夢がもとでこの まわったりしたため、無実の罪をきせられる 親をなぐったりけったりし、又親殺しをふれ

と言ったが、ぼくはそうは思わない。ただス ょうした時、イヴァンの指示通りしただけだ フがイヴァンが三度目にたずねてきた時はじ は苦しみたいのです、苦しんで自分を済めた いのです!』とさけぶ場面は胸を打った。 い、というがむしゃらな欲望を起こし、〃私 めて自分がフョードルを殺したのだとはくじ また当の親殺しである下男のスメルジャコ

弁酸をしながら発狂してしまったがいつかき もの苦痛のためなのだ、イヴァンは神を心を **言えば、それは「小さな受難者」つまり子ど** どこかで信じている、ぼくはそう思う。兄の ろうか、またなぜ「調和」を見とめないかと なのだろうか、又、神の世界の否定も自から宮 れるという哲学もはたして心底から出たこと りながら、兄を弁護することに決心した。は 法廷で申したててもみんが信じないことを知 返しするだけだりただこれだけではないのだ ゃない、ただ「調和」の入場券をつつしんでお っている言葉々ぼくは神様を承認しないのじ の悪魔的な大否定も、すべてのことはゆるさ たしてイヴァンは無神論者なのだろうか。そ フが自殺したことをその夜聞いても、次の**日** うか。 うな事が今、日本で起こっていると思う。そ あらねばなりません! この音楽と同じよ さえ人々を驚かすにたりなかったという点に しわれわれの恐怖はむしろかかる暗黒な事件 ルは、弁籔士フェチュコーヴィッチがいって 的な性格からきているのだと思う。フョード ミートリーが「イソップ」と呼んでいる道化 のだろうか。ぼくはフョードルの径落な、ド の涙を受すべし。ソシマ長老の言葉通りにな いるように親とよぶ資格がないと思う。 ったが、その喜びはいったい何だったのだろ また検事が論告の初めに言っている!しか このおそろしい親殺しの事件は何がもとな

ンは自分の良心にはじ悩、み、スメルジャコ を解しただけのことだと思う。しかしイヴァ

が喜悦の涙をもって大地をうるおし、かつそ

てこの喜びはなんだったのだろうか。・おの

がり、自分のしょう来に大きな変化をあたえ くがその夜不思ぎな喜びを味わった。はたし たゾシマ畏老が死に、その時いくらもたたな いうちに腐り出したのを見て神に不満をいだ 思われている三男アリョーシャは兄弟の中で ただ一人温和的な人物である。自分をかわい 二人の兄やその他の人々から天使のように

っと回復するにちがいない。

んなことがないようにつとめたい。

部

ラブの歩み

体育クラブ

体操クラブ

今年は絶対に「優勝して来る」とみんなできったのも今ではみんな思い出になってしまった。今、考えてみると体操クラブ全員は一日として休んだことがない。どんなに苦しい時があっても、みんなで励まし合って力いっ時があっても、みんなで励まし合って力いっけい練習した。ある時は真っさかさまに頭かばい練習した。ある時は真っさかさまに頭から床へ転落して涙が洗れそうになって「こんなクラブなんかやめてしまおうか」などと言ったこともあった。だが、そこでやめてしまったら男の名がすたると思い、また一生懸命にたら男の名がすたると思い、また一生懸命にため男の名がすたると思い、また一生懸命になります。

た。その時はちょうど海に行きたい八月頃であったが、体操部員は練習を忘れることはなかった。練習に練習を重れ、徹底した技を研いた。その時の体操部員の男子の格好は身につけているものといえば、小さくて 短い 運の六時半から学校へ来て朝御飯も食べずに授繁時間の十五分前までびっしりと 練習 をした。そして、風呂に入ると体の調子が悪くなると言って、しばらくは風呂にも入っていなかった。だから部員の全身は垢と守こりでまかった。だから部員の全身は垢と守こりでまっ黒だが、かえってそれがたくましく見えた。ファイト、ファイトグ

がすがしい朝だった。大会核は函館新川中学目がさめた。空は青空、心も青空といったすって寝なさいといった。次の日の朝は六時頃って寝なさいといった。次の日の朝は六時頃

まりそうだった。また、その帰りの道は非常にしまった。 あとは全力を尽くして争うだけ。 一日目は鉄棒と床運動だけ。 二日目は跳馬、一日目は鉄棒と床運動だけ。 二日目は跳馬、やして試合が終わってからの発表で「五稜中学校男子総合第一位、女子総合第二位」といせれた時は、 あまりにもうれしくて呼吸がと



しい気持ちは、何にもたとえようのない気持 合に負けたときのがっかりした気持ち、くや 暗い影など一つもなかった。それだけに、試

つくお礼を申し上げます。来年こそは「野球

してマイナスになったとは思われない。

ファイトの も、ほく違にならってがんばって下さい。 の質状をとることができた。後輩のみなさん 輝いていた。そのほかにも男女種目別で多数 (沢口啓一)

長く、遠く、また部員のまっ黒い顔も明るく

球 部

野

あっけない結果で終わってしまった。つい

部に入れば、愉快な人になる。野球部には、 底ぬけの明るさがあった。

無口な人でも野球 練習、練習の毎日の生活の中にも野球部には で、少し甘く見ていたのかもしれない。結果 敗に終わってしまった。練習試合で勝ったの 手に1対0で負けはしたが、善戦した。しか いだけの体力作りをした。しかし、こういう で、基礎体力をつくり、夏の暑さにも負けな ングをした。冬はバスケット、柔軟体操など の二大会に備えて「大松」顔まけのトレーニ はこうであったが、ぼくたち野球部員は、こ し、中体運野球大会では中央中に5対0の完 かれた。少年野球大会では、強豪深堀中を相 に、念願の二大会連続優勝の野望は打ちくだ

ちだった。何か自分の心に一つの空洞ができ ちは、またもとどおりの明るいぼくたちにな たような。でも時間がたつにつれて、ぼくた いものです。 五稜」の名を、

全市に鳴り響かせてもらいた

(松崎明)

一学期最初のある日、わが羽球部の教室に 部

労を共にしてこられた三先生、及び先輩にあ 社会へ出てもりっぱな社会人と誇れる人間と なりたい。又、ぼくたちの野母部のために苦 たくさんある。ぼくたちは、これを生かし、 生活におけるチームワークの重要さ、その他 てから、いろいろなことをおそわった。団体 ない方がいい。ぼくたちは、野球部に入部し よくないと思うし、そういうクラブなら入ら 中でやめるような気持ちでクラブに入るのは ワークがなんにもならなくなってしまう。途 ム全体に響く。せっかくつくり上げたチーム 途中で落伍したら、その人だけでなく、チー れど、「男ならやってみろ。」この精神だ。 いかなければならない。唄のふしじゃないけ はつらい。でも、それをがまんし、耐えぬいて のない怒りがこみあげてくる。たしかに練習 ういうのを見ると、ぼくたちは、たとえよう 年生は、今年だけでも相当やめていった。こ した。これからは、後輩の指導である。一一 出し、全力をつくして戦ったんだ。」と自覚 った。みんな「自分達は梢いっぱいの実力を 踩 球

ことができた。このことは、部員にとって決 校生活を少しでも多く楽しみ、体力をつける 動は活発とはいえなかった。でも、みんな学 楽しんでいるふうだった。今年のクラブの活 瞬の間でも、その時は苦しさも忘れ、みんな 思いっきりバドミントンをやった。たとえ一 れぞれに、一つの羽に自分の力をぶつけて、 人達でクラブをやることとなった。みんなそ 球部の部員が集まらなかった。そこで少数の れ、いざ活動しようとしても、こんどは、羽 して、羽球部の練習日が木曜日にわりあてら てもやれる状態ではなかった。中体連が終了 いて、少なくと6中体連が終わるまでは、と 場は他のクラブが中体連の準備などで使って たくといっていいほどなかった。外でやろう 連の種目にははいっておらず、練習日はまっ るくらいだった。しかし、わが羽球部は中体 と思っても、風の強い日は羽が流され、運動 は大ぜいの部員が集まった。部員数は多すぎ

う。 最後に、羽球のラブに力を貸して下さった 養藤先生に、心からお礼を述べるとともに、 養職のみなさんは、これからも先生がたの指 動するクラブに育てあげていってほしいと思 動するクラブに育てあげていってほしいと思

球部

日行なわれていったが、私自身卓球がいやに たこともあった。このような単調な練習が毎 注意されたものだったが、それでもやってい われた。よく先生がたに、早く帰るようにと は小さな白いボールが見えなくなるまで行な に向かって練習は行なはれたのだった。それ も、ふぶきの日も休みなく、優勝という目標 度の大会までほとんど毎日、雨の日も、風の日 たその日の夕方からであった。それから今年 目標に練習に入ったのは昨年の大会の終わっ 子優勝、男子三位という良い成績であった。 いたのであったが、今年度の中体連の優勝を 二、三カ月の練習の成果ではない。 我々がこのような成績をあげるためには、 今年度の大会成績をふり返ってみれば、女 入学し、卓球部に入った時から始まって もちろ

これらのようなさまざまな事があり、大会た。みんな卓球がめしより好きだったのだ。しかし、数日もたつと再び来るようになっしかし、数日もたつと再び来るようになった。 A君などは、ぜんぜん調子が出なく、った。 A君などは、ぜんぜん調子が出なく、



ま、中体連卓球大会の幕は切っておとされてヮークが乱れ、主力選手の調子が出 ない ままで一カ月たらずとなって、最後の練習に入

なったり、やめたくなったことがしばしばあ

しまった。

女子は予選リーグ、決勝トーナメントとも、 大は予選リーグ、対中央戦の時、トップ、二番子は予選リーグ、対中央戦の時、トップ、二番子が接戦のすえ破れ、後が頑張り3ー2であぶなく勝ったのだった。決勝トーナメント第一回戦は新川を3ー0で簡単に破ったが、二回戦の光成は実力の上では大差なかったが、二回戦の光成は実力の上では大差なかったが、つけずかに分が無く0ー3で敗れ、結局第三位だった。

に向かって、練習にはげんでもらいたい。 ではあるが、やはりチームワークがしっかり ではあるが、やはりチームワークがしっかり

(住山省悟)

籠球クラブ

「どうだ、中体連に出てみないか」といったことになったのは、阿部先生や岡本 先 生が ことになったのは、阿部先生や岡本 先 生が

対のでまけてもいいから出場してみないか」 思っていたら「いつかは初出場するんだ。60 ことからだ。初めはとてもまだ僕違なんかと というので、僕達は出てみる気になり まし

んげりました。 それからはいつも練習に練習をかさねてが

そのうちに僕達と試合をする学校がきまり

ある中央中学に集まった。ちょっと見ると、 すごく背の髙い人や、上手そうな人がたくさ んきていたが、僕達はそうもおどろかなかっ

合をすることになった。試合当日は開会場で ました。男子は中央中と、女子は大川中と試

開会式はいろいろな学校の人達が並んで真

場中学校へ行った。的場に着くともう少しで 僕達は女子が試合をする第二の会場である的 剣そうな面持ちであった。開会式が終わると 女子が始まろうとしていた。「間にあってよ かったな」といっている間に、試合開始のホ

すばやく整列した。試合が開始された。試合 おしくも負けてしまった。これも今となって そして勝抜いてきた揚川中と試合をして、 けてしまいましたが、女子は大川中に勝ち、 の結果はみんなの御承知のとおりの大差で負 は、よい経験になったと思う。

を見ていたら、もう僕達の番だった。僕達は

球部員よ!真っすぐ天に向かって伸びようで 中学校の簡球部の歴史がきざまれるのだ。簡 勝することも沢山あるだろう。こうして五稜 はないか。 これからの簡球部はもっと活発になり、優

上 部

> 選手の姿はまるでファイトのかたまりのよう に見えたと思います。いよいよ競技開始。ど

に耐えました。そして、とうとうその日がや で、おたがいにはげまし合って、つらい練習

って来た。묓一つない霄空、その時の五稜の

した。 しかし「総合優勝するまでは」そう思 るぼくでさえ、幾度か途中でやめたくなりま 来る日も練習が続きました。キャプテンであ 指示に従い、よくついてきました。来る日も しばありました。また、部員もキャプテンの る時でも、練習に出てくるということがしば

って歯をくいしばって頑張りました。みんな

成長しました。そうなるまでには指導の先生 部がわずか三年の間に総合優勝できるまでに たっていません。その歴史の浅い五稜の陸上 五稜の陸上部はできてからわずか三年しか 時。「総合の部、第一位五稜中学校」と、審 耳をすまし、目を審判長に向けて待ったあの 目が終わって閉会式、優勝校の発表。部員は 苦労と努力が実る時でありました。最後の種 た。そうして第二日目、指導の先生と部員の ュースは明るいものか多かった。こうして第 いものがあり、選手のテントに入ってくるニ の種目を見ても五稜の選手の活躍は目ざまし 一日目から五稜は他校を完全に圧していまし

部員のだれもがそう思ったはずです。 やった。三年間の苦労が実った」と、その時 判長がいい終わるか終わらないうちに部員た ちの口からもれた歓声。 「やった、とうとう

陸

に僕達の時間が泊ってきたので、中央中に戻 で試合が進められた。試合が終わらないうち 川に戸接を送った。どちらも同じような調子 った。ユニホームに着替えて会場に出て試合 イスルが鳴った。みんな一せいに五稜や、大 した。指導の先生はカゼをひいて少し熱のあ 合優勝という大きな目標に向かって前進しま も、部員も一丸となって、ただひたすらに総 いく部員も少なくありませんでし た。 先 生 ませんでした。途中あまり苦しいのでやめて えて来ました。なみたいていの苦労ではあり も、部員もみんながいろいろな苦難を乗り越

った。しかし、後輩諸君、戦いはこれからで

こうして総合優勝までのけわしい道は終わ

ることを希望します。 を、また来る年も戦いぬき、守りぬいてくれ す。この努力と根生で作り上げた五稜の伝統 (山田耕作)

テニスクラブ

すが、テニスの方は運動量がある程度多く、 たからでした。テニスは卓球とは似てはいま を身につけることができるスポーツだと考え いつまでも忘れられなかったからでした。 テニスクラブでした。僕がテニスクラブを選 んだ最大の理由は、一個の真っ白いボールを 一心に追いかけて打つ、この時の快い感じが それから、テニスというものは楽しく技術 僕が最初に運動クラブとして選んだのは、

ちですが、僕達の学校のコートは風にはあま す。テニスというものは、天侯に左右されが 疲れの度合いを調節しやすいという こ と で

くなってしまうからです。 グニャグニャになって練習することが出来な ような赤土でできているので、少しの雨でも やっかいです。僕達の学校のコートは粘土の このへんで、今年のテニスクラブの状況を

> が二年、三年の順になっています。 約三〇名、そのうちの大半は一年生、その次 お知らせします。クラブ員は男女を合わせて

ありませんが、学校で買ってくれたラケット があります。ですからラケットを持っていな い人でも、テニスを楽しむことが出来ます。

そして、テニスクラブには数はあまり多く

役に立つものです。僕はテニスは勉強に対す の精神です。これらはいつ、どこへいっても する正しい判断と研究心、それに努力と協力 身につくものがあります。それは、物事に対 それから、テニスをやっていると、自然に ず、リーダーとして苦労したが、最後には全

る努力と研究の精神をも教えこむと信じてい (久保幸三)

ます。

登 山クラブ

考え、反省してみた。五月の上旬に四十年度 登山同好会があったので私は入部した。 のクラブが発表になった時に、同好会として この一年間の我々の計画と行動をいろいろと 部員十二名ほど、顧問は蘇馬先生「函館地 今、登山クラブの記録ノートを手にとって

のなによりのはげましになった。

り左右されません。ただし、雨の場合は大変

回立て、一回目は春の七飯岳、横津岳縦走をお 山に必要な地図の見方、コースの決定、研究 けないくらいの活動をした。計画は全部で五 を学びあい、蘇馬先生から山についてのいろ をおこない、最低の天気図の鸖き方、読み方 ますます全員の気持ちは固まった。それに登 いろな話を聞くなどして、ほかのクラブに負

こない、初めのうちは、全員との呼吸が合わ

に参加した、そのがんばりと、熱心さは我々 歌に歌われている山を登ったつもりである。 雪と花の対象が美しかった。全計画で、 応援 本当に残念だった。しかし、一年生が全計画 だ春と冬とが同居しているようなもので、残 員一致の行動をとった。春山といっても、ま ただし、心残りは今年の異状天侯と山おやじ (熊)の登場で、駒が岳をあきらめた計画は

かい」「山を登る時、つらくて、ばからしく はよく人から「山って、そんなにおもしろい だけが知っているのだと思う。また、その美 ってもらうために山登りをすすめます。我々 いものだと思う。我々はその印象を深く味わ しさ、静寂さは口から外にだして表現できな 山に登った時の気持ちは、そこに登った者

の月の下旬に七飯、横津岳の縦走をおこない

区山岳会会員」で、二回ほど先生と研習会を

するうちに全員の気持ちも合い、さっそくそ

がはいれる道がつき、だれでも簡単に、しか でスーと頂上に新けるようになっている。 を知っているからだ。現代のスピード主義は 愛する心があまりの手軽さに、わすれられて りしているが、これも山を愛し、又、自然を 山者が山にはいりこみ、山をよごして帰った ら、十分な準備をしない、いわば神風的な登 も手軽な服装ではいりこめる。又。簡単さか ている。横準岳、仁山の奥にしても、 かも、我々の身近にある山もそれに近くなっ 人 が 汗 水 たらして頂上に辞くより、乗り物 に行くのをやめない。なぜなら、山の美しさ せ、適当な山を登ってみてください。きっと の体力と、経験と、装備と、天候を考え合わ なにかしら心に残る物があると思います。又 な人も、足を使い、山に登ってください。 自分 いるものと思います。体の弱い人でも、元気 一 度 山 を 知った者は、何と言われようと山 自動車

排 球 部 我々は同好者の入部を歓迎します。 山の本当

の奱しさ、よさを知ってもらいたいと思いま

広大な澄みきった寄空のもとで、僕達排球

習など、もくもくと練習に励み、そしてつら 部員は、中体連での勝利を夢見、照りつける 軍の自倡過剰の油断が勝負を決め、惜しくも で、練習に明け暮れてきた。が、結果はわが 部先生ら、そして学大生の小西先生の御指導 位を獲得しようと心に哲い、三十刈先生、阿 太陽の日も、雨の日も、特に夏休みには朝練 いことを克服してきたこの一年、栄誉ある地

ないかい」と言われることがあるが、しかし

はしたが、三位を確保した。さて、ここでわ 戦、一戦勝利を重ね、優勝した碭川中に破れ 緒戦で姿を消してしまい、一同大粒の涙を琉 が軍のチームワークについてふり返ってみよ し、目を真っ赤にしたのだった。女子は、一

面の不安など、これらをカバーしてチームワ た。なぜならば、個々の技術面の未熟、精神 チームの編成が少し遅かったからではなかろ ークがあまりよくなかったと思う。原因は、

うか。このことはどのスポーツにおいても通

う。今年は、チームワークについて 痛 感 し

蠠 手 名

ワークをガッチリしてもらいたい。そして、 新チームへの願いは、編成を早くしてチーム ることだろう。特に球技においては、だから 精神力がものをいう試合の時に実力を充分出

これらを盛り上げるにはチームワークが必要 父兄の方々に心から感謝しております。 わかちあった賭君、並びに御協力下さった御 を残すよう願ってやまない。一年間の苦労を ら、毎日の練習をさぼることなく、よい成績 だ。何事もすぐに上達するものでは ない か は一にも、二にも、三にも練習だ。そして、

(沢口配)

女 子 中村しの*&* 女 岡本 村岡真理子 原 木村 美代 須田 順子 端川由季子 投尾 彰子 涼子 中村 近藤 平田恵美子 酒谷

本年度出場 子 男 沢口 良介 矢木 哲美 綱森 豐 広川 気仙 豊寿 Œ 岸田 兼一 水上 北島 昇 功 沢口 相馬 豊 正明 金村 上田 修平

文 化クラブ

美 クラ

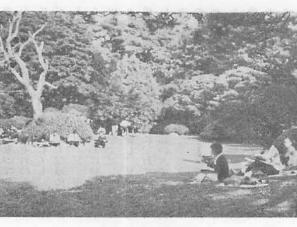
思えば美術クラブはあまり皆さんによく知

戦いは必ず勝たなければならないと、勝つに

せるような心を養ってほしい。又、心には、

られていなかったようでした。

ど、クラブ全体のまとまりに欠けていたよう 部員が少ない、 集合の時よく集まらないな



ドグラスに汗を流しました。 ついて離れなかったり、又、一方ではステン 一つはってゆくモザイクに、何時間もへばり

はありませんでした。 きるんだ。このときくらい、強く感じたこと こうしてできたときの喜びは、何とも言えな しでもよい作品をと思い、がんばりました。 いものがありました。努力すれば何だってで 安井先生の御指導のもと、 一致協力して少

展させることを期待します。 はなく、 の皆さん、これからは名だけの美術クラブで らば明日はいちだんの進歩あらん。 きょうなし得ることに全力をつくせ、 内容の充実した、立派なクラブに発 (小山芳枝) 一、二年

るペニヤ板に、色を塗った卵のカケラを一つ

しか

物 ラ

まだ完全に必要な器具が、そろったとはいえ よって、 んなあまりじょうずに出来ませんでしたが、 ません。最初のうちは、不慣れのせいか、み な器具がたくさん買えたことです。しかし、 すと、いろいろなことがありました。 まず、去年よりも予算が多く入ったことに 私達のクラブは、今年をふりかえってみま いままで本校にはなかった、必要

に思います。クラブの中心柱となる私達が

してもらおうと、文化祭のとき、体の倍もあ います。でも、美術クラブをもっとよく理解 ないのも無理のないことだと思い、反省して 途中で折れてしまったのだから、うまくいか

> だんだん使用していくうちに、簡単に解剖な どが出来るように上達しました。

、放課後おそく残ってやったのですから、こ れからの文化祭には、もっと熱心に見てほし ることを、心から望んでいます。 などを改善して、よりよいクラブにしてくれ 三年の出来なかったことを、または、悪い点 階君は、来年もこのクラブに入って、ぼく**達** いと思います。今、生物クラブの一、二年の は、いま考えても非常に残念です。せっかく がって、あまりよく見てくれなかっ たこと を主として行ないましたが、みんな気持ち悪 ネズミ、フナ、イカなどの解剖、解剖図など 一番いそがしかった文化祭には、ヒョコ、

家 庭科クラブ

した。 大人数で、さっそく四月から活動を開始しま されました。私達のクラブは五十数人という 新学期が始まり、新しくクラブの編成がな

行に移していきました。 調理実習を行なうことなどを決め、それを実 て、作品を製作すること、二カ月に一回程度 活動計画として、まず文化祭に重点をおい

理実習の時には、みんな忘れずに集まるので 集まりのよいほうではありません。でも、調 名たらずより出席しないことが多く、決して すから不思緻です。 てきました。ただクラブの活動日でも、二十 て、お互いに教え合い、だんだん軌道にのっ 会を重ねるごとに、みなそれぞれうちとけ

をしながらの楽しい活動です。 しょに口のほうも盛んにうごき、おしゃべり 又、女子だけのクラブですので、手といっ

てろうけつ染めに桁を出しました。 みな染め物をするのは初めてなので、成田 文化祭の二週間前からはクラブの作品とし

喜びが感じられるのでやりがいがあります。 品は、とてもすばらしく思えて、使うのがもっ 先生にご指導をいただいて、六時頃まで熱心 たいなくなってきます。自分でつくることの にとりくみました。こうしてできあがった作 来年度はクラブ員全員が参加し、もっと活

動を盛んにして下さい。 最後に私達にやさしく御指導下さった先生

社 会 クラブ

に心から感謝します。

わが社会クラブでは、一学期の始め、西谷 (山崎るり子) 日には、会場いっぱいのお客が入り、たくさ 事をしていました。そのおかげか、文化祭当 のころは、みんな、絵の具だらけになって仕 ぎりまでかかって作品を仕上げたのです。そ

二年が中心になって文化祭まではげんでいく になったのです。今年の社会クラブは、一、 することができなく、文化祭まで苦しむこと たのですがその中のいくつかを残しては実現 項、見学場所などを決め、今年の目標を決め

三上両先生を顕問にむかえ、文化祭 発 袅 事

製作がいっこうに進まないで困ったのです。 できたのではなく、クラブ全体が一つになっ 単に、クラブ員の一人一人の力でやることが んとか乗りきることができましたが、これは 近づいてきたのに、文化祭に発表する作品の が、そこは、クラブ員の努力と頑張りで、な ことになったのでしたが、文化祭がいよいよ

て努力したから、この苦しい時をのりきるこ とができたのだと思う。

なにぶん部員の数が少ないため、文化祭ぎり えてきたといってもいいだろう。部員の頑張 同志の団結も強まり、ようやくほかのクラブ りのせいか、仕事は顧調に進んでいったが、 にもおとらないほどの力が社会クラブにも見 そして、この事があってからのちは、部員

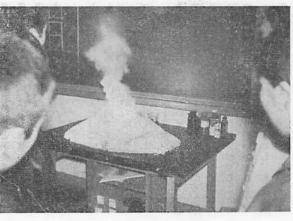
> 思います。 は、今年のようなことがないようにしたいと す。今年のクラブは、部員の数が少ないうえ 優勝した時の感激よりも強いものだと思いま 、文化祭の時の感激は、運動クラブが試合で 文化系のクラブは、じみな存在でありますが しかいなく、苦しむことが多かったが、来年 に、中心になってくれるはずの三年生が一人 行なう運動クラブに比べて、社会クラブなど て仕上げた作品だけに、その時の気持ちは、 っぱいでした。とかく、はなばなしい活動を いいあらわすことのできないような感徴でい んの質問や、批評をうけたのでした。苦労し

化 学クラブ

円、計七千円の要求もその他の五百円がけず 類二千円、器具類二千円、その他として三千 が担当の佐々先生や、三年生の科学の坂牧先 その他実験事典の適当な実験をやり、薬品の 生、そしてクラブ員全員の意見一致で、薬品 そそぎ方や、器具の取り扱い方、その他科学的 クラブでも一番大切なのは、生徒会の予算だ 知識を身につけることを目的としてきた。何 の際の実験をもう一度やって完全に覚える。 化学クラブのこの一年は、学校の科学授業

ための討論会的なものを開いた。しかし、発うい全員集まってよりよい化学クラブにするらい全員集まってよりよい化学クラブにするられただけで、六千五百円を確保した。クラ

ブ全員で慎重なうちあわせの結果、一年生は



だった。文化祭の時は、十日ほど前からクラった。一番ひどかったのは十月の文化祭の時明工夫と同教室のためしばしば衝 突 が 起こ

年の目的を完全に完成し、よりよいクラブに ジオの展示、三年生は去年もやった塩化水素 佐々先生の監督下で火山の噴火、二年生はラ してもらいたい。 っている。四十一年度の化学クラブはその一 この一年の目的は八分くらいは完成したと思 これもいい経験になったと思う。前に述べた やったにしては、少しお粗末な面もあったが、 いなかった。でも、クラブ全員が協力一致して トもなかなかうまくいかず、まったくついて あ未来占い機はイヤホーンが故障、実験セッ の噴水はほとんど成功なし。ラジオはまあま 専用の実験セットをやった。結果は塩化水素 験、二、三年共同の未来占い機、あとはクラブ ェノール・フタレインと、塩酸での中和実 の噴水、来客用として水酸化ナトリウム、フ (増子 潔)

です。

放送局

一放送と私・

は、朝、屋、帰りと三回にわたって放送を流六年生のときでした。その頃、私達の学校で私が初めて放送の仕事を知ったのは小学校

していました。小さいときから、一度でいいた私には、その放送の仕事が楽しくて楽しくて仕方がありませんでした。中学校にはいってからも放送のおもしろみが忘れられず、文化委員となって放送の仕事を続けることができました。でも、後期にはそれもできなくなり、少しガッカリしました。しかし、二年生になって「学校の放送局をつくる。また、その放送局員も募集する。」という話を先生その放送局員も募集する。」という話を先生をの放送局員も募集する。」という話を先生

放送の仕事はなかなかうまくいかないことがたくさんあります。ちょっとでもマイクのがたくさんあります。ちょっとでもマイクのがたくさんあります。ちょっとでもマイクのがたくさんな放送の仕事を通じて、たくさんの友だそんな放送の仕事を通じて、たくさんの友だそんな放送の仕事を通じて、たくさんの友だそんな放送の仕事を通じて、たくさんの友だそんな放送の仕事を通じて、たくさんの友だそんな放送の仕事を通じて、たくさんの友だそんな放送の仕事を通じて、たくさんの友だそんな放送の仕事を通じて、たくさんの友だそんな放送の仕事を通じて、たくさんの友だと、別談さん、上級生にも下級とにもたくさんあります。でもまだまだ未熟な点がたくさんあります。でもまだまだ未熟な点がたくさんあります。でもまだまだ未熟な点がたくさんあります。でもまだまだ未熟な点がたくさんあります。でもまだまだた。

(谷岡百合子)るよう努力していきたいと思います。親しみやすい、よりよい放送局をつくりあげれれから少しずつ勉強を積み重ね、みんなの

発明工夫クラブ

使たちのクラブ、つまり発明工夫クラブにとって、ことしはとてもいそが しく、楽しく、また、思い出に残る年だったと思う。 マー作りにかかった。そして、そのボスターを、新入生がはいってくると同時に廊下にはを、新入生がはいってくると同時に廊下にはを、新入生がはいってくると同時に廊下にはを、新入生がはいってくると同時に廊下にはを、新入生がはいっていたのは、僕と二年生が十二人という大数になった。この中で、前の年から発明工夫部にはいっていたのは、僕と二年生の村上表部にはいっていたのは、僕と二年生の村上表部にはいっていたのは、僕と二年生の村上表部にはいっていたのは、僕と二年生の村上表の二人だから、このボスターのききめは大きいものがあったのだろうと思う。 顕問は坂世により、楽しとって、また、思い出に残る年になって、

目の 前に 文化祭と発明工夫展が 待っ ていったが、二学期になると、そうはいかない。発明工夫のアイデアの出しあい な どで 終 わー学期は、理科室にある実験器具の説明や、一学期は、理科室にある実験器具の説明や、

の作品を、文化祭に展示できない ことに なの中に文化祭がはいっているのだ。発明工夫の中ごろに延びたものの、作品は、九月の終の中ごろに延びたものの、作品は、九月の終の中で大化祭がはいっているのだ。それは、発明工夫展が十一月ことが起きた。それは、発明工夫展が十一月

る。そこで、みんなで相談した結果、文化祭

生徒が手伝ってくれたことなど、いろいろ思生徒が手伝ってくれたことなど、いろいろ思いて、お化け屋敷を作ることになった。 当日は、本校初めてのお化け屋敷とあった。 当日は、本校初めてのお化け屋敷とあった。 当日は、本校初めてのお化け屋敷とあった。 一生懸命作りなおしたこと、部員がないで、一生懸命作りなおしたこと、部員がないで、一生懸命作りなおしたこと、部員がないで、一生懸命作りなおしたことなど、いろいろ思れば、理科室の三分の一の標本室をつかったは、理科室の三分の一の標本室をつかったは、理科室の三分の一の標本室をつかった。

エンピツをおこう。 (伊藤 昇) が返ってきた。大いそぎで作ったため、一点が、みんなの喜びを増してくれた。 終わりに発明工夫部の今後の活躍を信じて終わりに発明工夫部の今後の活躍を信じている。 (伊藤 昇)

い出に残っている。

音楽クラブ

音楽クラブの部員は合計約七十名くらいで大子はその約八割です。男子は女子に比べて女子はその約八割です。男子は女子に比べて女子はその約八割です。男子は女子に比べて女子はその約八割です。男子は女子に比べてなっています。このように今までよりも、より能率がます。このように今までよりも、より能率がよくなり、環境も非常によいので、新年度には去年出場できなかった音楽コンクールに出は去年出場できなかった音楽コンクールに出は去年出場できなかった音楽コンクールに出は去年出場できなかった音楽コンクールに出は去年出場できなかった音楽コンクールに出は去年出場できなかった音楽コンクールに出は去年出場できなかった。

(2年クラブ貝)

くさん入ってきてください。

将棋同好。会

ら来る人などを入れると大体三十五、六名、に一度練習しています。会員は他のクラブか頤間に将棋五段の竹内先生を迎えて、一週間の年発足したばかりの我々の将棋同好会は

立った活躍はあまりありません で し た。で今年は発足したばかりで会員は少なく、目しく、人気のあるクラブの一つです。 明な時に来る人など、なかなか出入りがはげ趣味で入った人です。また、かけもちの人、実際は二十七、八名で、そのほとんどの人は

ったが、一番の思い出です。 なった活躍は多まりありません てした ひんかんには リーグ形式でニリーグに別れて 脱位をつけ、成績の優秀な人にはメダル、そ にん でん はな 本や手帳など、全員に賞品が与 いんが、 一番の思い出です。 それに、リーグ形式でニリーグに別れて した。 それは、リーグ形式でニリーグに別れて した。 ていたが、一番の思い出です。

い。 (中川博仁) でいいのでは、今年以上に立派なクラブになるようにひとりひとりの会員が努力してくれるようにひとりひとりの会員が努力してくれるようにひとりひとりの会員が努力してくれるようになっている。



3



美

部

後輩の皆さん、皆さん方は、明るいすっきりとした教室で勉強するのがどんなに気持ちのよいものか知っているでしょう。それは、おかっているのですが、いざやろうとなると、そう、うまくいきません。それで、広沢先生、松井先生、桑川先生、三上先生の諸先生せん。それで、広沢先生、松井先生、桑川先生、三上先生の諸先生力の御指導をうけ、各クラスでは、男女二人の整美委員を中心に毎日の掃除、月に一回の中掃除など、全学年を通して三十八名がいろいろと、美化につくしております。

ほしいということでした。とした気持ちのよい所にして、みんなに一生懸命勉強に力をいれてとした気持ちのよい所にして、みんなに一生懸命勉強に力をいれてほく達の理想は、前にも述べたように、教室を明るく、すっきり

げ、各クラスのH・Rで、徹底した話し合いをしたことがありまし それでも中には掃除用具をとわすものもでてきて、代議員会にか

今年は、整美委員の活躍も十分でなかったためか、目標も達するでは、決して教室は明るくはなりません。

るくする為に― (日向 直文) の理想を完成させてください。この学校とクラスを美しく、より明後輩の皆さん、どうぞ長い期間をかけても整美部に協力して、こことができず、反省すべきところが沢山あります。

生部

まずみなさんにお願いすることですが、バンをたのむ時はなるべく早くすることです。キチンとお金をもってくる人が殆んどいないのも、けっきょくはこまることになるのです。
です。パン屋さん方にもなくてけっきょくおつりが遅れてしまうこです。パン屋さん方にもなくてけっきょくおつりが遅れてしまることがしばしばあります。

次に厚生委員に望むことですが、パンをもらう時にもうすこし静

本のに又一列にならんで取るようにしてもらいたいものです。パン屋かに又一列にならんで取るようにして下さい。 まりよい五稜中学校を作り上げて下さい。 (浜地満知子) よりよい五稜中学校を作り上げて下さい。 のようかしまえてから行動するようにして下さい。 をびんがあったならただちに牛乳箱にいれるようです。見た目もきたなく又だらしなく見えますから注意してほしいと思います。 さびんがあったならただちに牛乳箱にいれるようです。見た目もきたい上が私の気がついた事です。 は上が私の気がついた事です。みなさんこれらの事に気をつけてよりよい五稜中学校を作り上げて下さい。 (浜地満知子) ない、海がたりないのも原因の一つかもしれないのですが、なにがない。 は上が私の気がついた事です。みなさんこれらの事に気をつけてよりよい五稜中学校を作り上げて下さい。 は上が私の気がついた事です。みなさんこれらの事に気をつけてよりよい五稜中学校を作り上げて下さい。 のは、海が大い五稜中学校を作り上げて下さい。 のに共和、大い西です。パン屋

躍進する生活部

委員が四班に分かれ、一週間ごとに滑酸という名をかりて、毎日与活部の先生方の御指導の下に、各クラス四名、合計七六名からなる毎日毎日の生活を安全に、そして規則正しく送らせるために、生つ機関といえるでしょう。

えられた仕事をしています。

にクラスや校内のようすに目を向けていなければなりません。項を決めていきます。もちろん、滑護に当たっていない人でも、常ぎ」に出てその週の反省を発衷し合い、そして、次週の目標や注意事に、クラスや校内の生活態度を見て歩き、週の最後に は「引 き 維生から腕章をもらい、遅刻を調べ、屋休みは、遊ぶことも 出 来 ず生活委員、特に、滑護に当たった生徒は、一週間、朝早く来て先生活委員、特に、滑護に当たった生徒は、一週間、朝早く来て先

今年度になってからは、職員室前の掲示板に、遅刻者を暮くこと 今年度になってからは、職員室前の掲示板に、遅刻者を暮くこと でも良くしていこうとしたものですが、字にまとまりがないということで、藤原先生の御配感により、印刷していただくことになりました。これは、始めのうち各クラスの週番が掛いた。このポスターは、校内の要所要所にはられ、校内の生活を少した。このポスターは、校内の要所要所にはられ、校内の生活を少した。このポスターは、校内の要所要所にはられ、校内の生活を少した。このポスターは、校内の要所要所にはられ、校内の生活を少した。このポスターは、校内の要所要所にはられ、校内の生活を少した。このポスターは、校内の要所要所にはられ、校内の生活を少した。このポスターは、校内の要所要所にはられ、校内の生活をかした。 人は、このような試みをどう考え、感じているのでしょう。

現在、目標や注意事項を守らない人がまだ存在しています。人間現在、目標や注意事項を守らない人がまだ存在しています。そうするとと活委員に関係なく進んで注意して欲しいと思います。まちがった行動をしたと気がついたならば反省し、以後気をつけていってほしいものです。又、規則をやぶった人を見かけたら、けていってほしいものです。又、規則をやぶった人を見かけたら、いのでまちがった行動をとる生徒も少なくなると思います。人間現在、目標や注意事項を守らない人がまだ存在しています。人間

ようにしたいものです。ち、全校生徒の協力を得て規律ある楽しい学校生活を送っていけるち、全校生徒の協力を得て規律ある楽しい学校生活を送っていけるります。そのような所を改め、生活委員の仕事に誇りと自 倌 を も生活委員にしても、改めていかなければならない点もたくさんあ

(今泉 博子)

•

3

售如

図

につれてむずかしいものへと変わっています。 につれてむずかしいものへと変わっています。 につれてむずかしいものへと変わっています。これは、受験勉強などで本を読む時間を得ることができないからだと思います。しかし中には、二冊も三冊も借りて行く読母好からだと思います。しかし中には、二冊も三冊も借りて行く読母好からだと思います。 につれてむずかしいものへと変わっています。

又、今までは、図铅館が相談室と兼用で使ってきたために今週はしていただけると思います。

で、かならず図書委員に渡すようにしてください。入っていたり、カード入れがバラバラになっている場合も ある の分のクラスのカード入れをさがして入れる人がいますがまちがって分のクラスのカード入れをさがして 入れる人がいますがまちがって

員に提出するようにしてください。 又、本を借りたならば、返さい日にはかならず各クラスの図書委

大いに利用してください。 (藤井 仁)山入ると思いますので、勉強のため知識を広めるために図街館を、これからは、図街館が広い新築の方に移され、本も新しいのが沢

、健体育部

開き、そういう意見をよく部会で話し合い、短所をなくするように努 うまくやることは出来ません。それから体育委員の長所、短所など るのだと思います。そして仕事に対する自信を保つために一番必要 選出されたことを誇りとし、また自分の仕事に自信を持つ事が出来 す。しかし、いったんそれが要求された場合、その要求に対して応え 運動会などで急にだれかが出場出来なくなった時、まずだれがどう 専門部には見られない良い点があります。というのは、ぼくらには 発で行動的で迅速に冷静な判断の出来る保健体育委員を作り上げて 力する事を後輩の保健体育委員に希望します。またこれからの体育 の意見を先生方やみなさんからどんどん聞くようにし、時々部会を いくら自信や誇りをもっていてもクラスを統一することや、仕事を なものは、みなさんの暖かい協力だと思います。協力がなくては、 選んで下さった事と思います。 またそうする事によって体育委員は も委員選挙のさいには、そういう本も考え合わせて保健体育委員を 他の専門部には見られない良い点があると思います。またみなさん る事が出来るだけの力を体育委員の一人一人が持っているという、 体育委員には、迅速にしかも冷静に判断し行動する事が要求されま たがって迅速に行動しなければなりません。このように、ぼくたち して出られないかを調べて先生に報告します。次に先生の指示にし いつ どん な所で、どん な仕事が起こるかわかりません。たとえば て下さった賭先生方に心から敬意を表します。(山田 いくことを、後輩諸君に望みます。最後に、三年間私たちを指導し 委員は、先輩の良い点は見ならい、悪い点は改め、今まで以上に活 ぼくら保健体育部は、先輩のみなさんもいっているように、他の

四 一十年度学校日誌 から

四月 Ħ 佐々 した戦員

三上 力也 守 教諭

港

史

(大川中)

深堀中

退任・転任した職 Ä (福島小) 退任式

四月

五日

武石 沼山吉之助 光正 (新川中)

(函館東高 (木古内第

小川

石塚

〇 日 日 形**態**測定 身分証明哲写真撮影

四月

一五日 四日 P·T·A会計監查 視力検査

聴力検査 映画教室

(東京オリンピック)

三〇月 65学旅行出発 (東京方面) 沼山前校長よりライラック寄贈

二五日 父母と先生の会総会 修学旅行帰着

非常口たたき工事 グランド西側排水工事

用務員 眼科検診 堤 沖野喜久雄 (港中へ) 北高へ

五月

Ħ

一八日

図書館開館 保健委員会

母の会総会、 桜苗木前庭植樹

内科検診

耳鼻科検診

九日 五日 中間テスト クラブ結成発足

二五日 四日 校庭整理 歯牙検診

六月 二九日 四日 市費会計監査 五周年大運動会

八日 六日 月例テスト 学力テスト(一七日まで) ッ反検査

二七日 二六日 男子優勝、 中体連陸上競技大会 B・C・母接種 女子三位、 総合優勝

七月 二九日 二日 九日 補導委員会 母の会 (市内見学) 間接扱影 定期テスト

九日 四日 学習心理研究会 地区別懇談会(二三日まで) 腸パラ注射 (校内)

月 三百 服装委員会 好学会開催 第一学期終業式 校外班集会 第五期工事登工

孝造 三郎 (五稜中)

〇月

一〇日 三〇日 二七日 三日 二 〇 日 二七日 一四日 七日 八日 四日 九 三日 六日 五日 八日 九日 七日 三日 八日 日 H 体操 豪雨、 小中学校教科課程研究会会場(一八日まで) P·T·A監查 台風二四号のため校庭のアカシヤその他の木々いた 女子標準服決定 排球 卓球 中体連八種目競技大会(六日まで) 理科教育研究会 夏休み作品展示会 第二学期始業式 服裝委員会 校門完成(前P・T・A会長千葉順亮氏寄贈 道南中学校体操競技会参加 青森県むつ市田名部中学校教員学校視察 後期生徒会役員任命式 秋季遠足(赤川水原池) 工事現場鉄塔倒れ工事小屋屋根吹き飛ぶ 道南染色技術研修会(一四日) 社会科指導研究集会 生垣(エボタ)同窓会寄贈 校内研修日 写生遠足 女子優勝、 門建設工事開始 百合中学校生徒会役員会との交歓会 床下浸水一七名、床上浸水一名 女子三位 男子三位、 男子優勝、 男子三位 服装委員会 女子二位 女子優勝 左右 二月 月 二日 二八日 二六日 三日 八日 一九日 六日 三日 四日 三日 九日 二日 二日 八日 六日 三日 九日 九日 六日 三日 日 写生遠足作品校内展示会 秋季検便 知能テスト(一、三年) 校内球技大会(三〇日まで) 中間テスト(二七日まで) 文化祭(一七日まで) 父兄会 第五期工事 就職予定生徒予備身体検査 五稜郭橋街路灯相談会 前庭花壇手入れ 冬の健康管理話し合い 母の会高校めぐり 前庭砂利敷き 木古内第一中学校参観 ストーブ煙筒取り付け消防署検査 昼休み体育館使用、学年別となる 北桧山校長会学校参観 インフルエンザ予防注射 学期末大掃除、校外班集会 校舎完成感謝会 学期末図書整理 校外巡視(一五日まで) 定期テスト(一〇日まで) 第二学期終業式 (美術教室、音楽教室、 検修 男女便所)

九月

匹

十年度受賞者

覽

文化関係 母の日記念感想文

安全に関する作文 (入選) (函館市安全会質)

(佳作) (北海道教育委員賞)(函館市安 全 会 賞)

松 木 井 村

日下部 扛 田 沢 紀久子 加寿子 礼 貞 麗 真理子 早百合 えり子 寿 苗 澄 夫

子ども街道展

(特選)

金世

(銀賞)

理科作品展(中学校理科研究会長賞)

(銀貨)

下水の日ポスター展

函館児童生徒席哲大会

(セメダイン賞)

第十三回小中学校美術展 (道新賞)

(入 賞)

Щ

忠

(中村理科賞) (博物館質) (北大水産学部賞)

> 大山 菅 広坂浜 山 髙 淹 Ш 楯 沢 道 守 麗 隆 男 豊 子 子 隆 穂 子

髙 土 谷 きよい

川神 吉 岩 山坂栗 田 美弥子 由紀子 久利江 まち子 郎 可

٦

陸上競技 (中体建) 男 係

四四一六一五位位位位位位

傷村恵美子 神門由起子 正雄

山笹古工松住 水 Œ 弘

水上競技大会(中体延)男

Ξ

二〇〇M自由

子 五位

J

二六二位位位

村藤辺辺

小羽矢吉永吉高吉井吉 田木田沼田木 思 由 和 ア 正 ア 章 由 美 チ 子 子 子 子 子子

卓珠競技大会(市内中体運)男 五〇M背泳

五〇M平泳

女

優勝 三 五 四位 位

浜 新 池 首 北 大 浜 葛 岩 上 長谷 地 城 B 藤 条 田 地 西 間 沢 川 岡山田西杉

満 み た れ 美 信 満 義 日 雄 秀 敬 省 秀 睦 継 知 わ か い 智 知 出 子 子 ね 子 子 子 夫 夫 平 三 史 悟 子 子 道

千代春

松田吉服上沢 沢村部坂口 体操競技大会(市内中体連)

女子個人優勝

校総

合

男

道南中学校体操競技大会

個人総合

男

四位

一位

松 佐 沢 女

男

六 五 二位 位位

女

松山佐上沢布太佐山松

男

女

二位



学校生 活 を 語 る



いかなかった。

出 席 者

広 Щ 豊

削

木

早百合 文平

中

Щ Ш

仁

Щ 沢

崎 口

るり子 良 介

みちほ 博

豳 内先 生 永 谷 先 生

笹岛 司会 うかがいしたいと思います。まず笹島君、どうですか。 ったので、あとは入試だけが心配です。 あと一カ月しかありませんが、規約も最終原案ができてしま それでは最初にみなさんに卒業を迎えての感想をひとことお

不安だったので……将来、生徒会をやるなどとは思ってもみま せんでした。 の思い出としては、校舎がとてもりっぱだったのと、ちょっと ってみると、とても短い一年間だったと思いますね。入学当時 生徒会を始めてから一年間が過ぎてしまいましたが、今とな

> 司会 時はやはり校舎がすごくきれいで、体育館の内部は初めてみた そうですね、山崎さんはいかがですか。 まだ卒業するっていう実感がわかないんですけど、入学した

司会 黒川さんはいかがですか。

ので印象的でした。

ど、やっぱりいざその時になってみると、なかなか思うように だから一生懸命に勉強しなければならないと思いました。だけ は、笹島君の習ったように、こんなきれいな校舎に恵まれたん 長いようで 短 かったこの三年間だけれど、入学し た 当 時

司会 い生活とに、期待と不安とがいり混じっていたようですね。 黒川さんも笹島君も、入学した当時は、きれいな校舎と新し

沢口 五稜中学校の生活もあと、少しですが、いろいろやりたかっ 他の方はどうでしたか。

司会 やりたかったことというのは、たとえばどういうこ とで す たことがとてもたくさん残っているので、少し残念です。

沢口もっと勉強したかったです。

司会 年間を通じて、もっとやりたかったことはありませんか。 沢口君から今のような話がありましたが、ほかの皆さんは三

これといってありませんけど、月一回の試験でもっと良い成

徴を収めておけばよかったと思います。

笹岛

木村 目いたいことは大体今までの方が目ってくれましたが、私も まだ卒業という気がしません。入学した時、期待していた方向

とはまったくちがった方向を歩んできたことが不思議でたまり ません。そして今はただ、なんと短かった三年間だっただろう

司会 と思っているだけです。 なるほど……

中川君はどうですか。

中川 ただ新しくできた特別室をもっと使ってみたかったと 思 い ま 卒業にあっては、まだ実感がわいてこないんですけど、あの

司会 がってみましょう。 年生からなのでもっと早くから運動クラブをやっておけばよか ったと思います。それではこのへんで竹内先生のご感想をうか 僕は三年生として考えてみると、運動クラブに入ったのは、三

竹内 ますが、生徒会の活動などを通じて、みなさんと知り合いにな 先生は今の三年生を、受け持たなかったのでね、残念に思い

どん話をしてもらわないと困りますね。そうしないと第一この ているんではないだろうかね。しかし大切な時にはやはりどん われているけれど、この座談会なんかにも、その気風がよく出 まりだけれども、一般に五稜の生徒の気風は、おとなしいとい れたことを非常に苺んでいます。この座談会なども、今度が初

座談会がうまくいかないと思います。

笹岛

エート、僕違がやったのは技術では、ブックエンドにチョトリ

家庭の実習などはどうでしたか。

にはじめて天火を使ったのでね、あまりよく使い方などわから 私達女生徒は天火などが整ってから実習したのよね。その時

なかったので、生焼けだったりこげたりしたけれど、自分違が

竹内 先生は、三年生の作ったものはごちそうにならなかったけれ 作ったというので、とてもおいしく感じました。 ど、一・二年生などは、ライスカレーなどを作ってくれたこと

があって、それを食べたことがありましたが、なかなかうまかっ

たです。実習室のごりやくあらたかと言うところですかな…

中川 司会 いろいろな保でテントにばかりいたので、みんなといっしょ 今年の運動会などふりかえってみてどうですか。

そのほかいろいろな思い出などありませんか。 (沈黙、しばらく)

に運動会のふんい気の中に入れなかったので、つまらなかった。

司会

おいと思いますが、どうですか。

沢口君などはクラブなどを盛んにやっていたので、思い出もお

沢口 一般に五稜の生徒は、運動クラブに参加している人が少ない と思います。素質のある人は、まだまだ多いと思いますので、

全員が運動クラブに入ったらいいと思います。

司会 先ほど話が出ましたが、新しい特別教室などもできて、実習 などもしているようですから一・二年のころ男子の実習などを 思い出してみてどうですか。

竹内 中学生も上級生になってくると運動会などでもあまりおもし すね。うらやましいと思います。 くらいですが、一年生は本箱ですか、技術室でよくやっていま

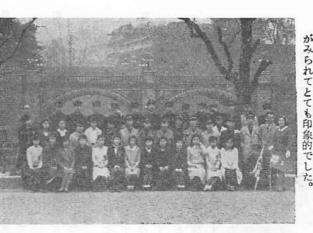
全員 ろがらなくなるような傾こうがあるのではないかな? (ロ々に) 「そうですね」

3

で一番印象に残っているのは、 あれはどの辺だったかな。

先生も中学生の頃そうだったから………

東京について一番最初にいった西洋美術館の中の彫刻や絵画 やはり思い出があるのは修学旅行じゃないでしょうか。 運動会はあまり思い出にならなかったようですね。



笹島 短期間にたく 力 がいいと思います くみてまわった方 少しのところをよ 長い時間をかけて けれど、やっぱり 残っていないんだ には浅い記憶しか たので、一つ一つ さんの所をまわっ ったと思います。 ルをくんでほしか と楽なスケジュー あったけど、もっ

れたと思います。

汽車で見た真赤な日の出だね。 中川 僕が修学旅行

黒川

あの、古くからのオリンピックの資料を展示したところで時

沢口 ラスごとでいいですからキャンプなどやるのもいいんじゃない だから修学旅行ばかりでなく学校で夏休みなんかを利用してク 日中一緒に生活したということが、一番印象に残っています。 といっても、一日中みんなとさわいだというと変ですけど、 見学して一番印象に残っているところはありませんけどなん

司会 今の沢口君の話のように収穫はいろいろな名所を見物すると いう事の他に、クラスの人みんながいつもの学校生活とはなれ て朝から晩までいっしょに生活するというところに、ひとつの

黒川 い所がわかって、みんな楽な気もちで五日間というものをおく おもしろさがあるのではないでしょうか。 やっぱりそういう事を通して今まで知らなかった良い所や悪

竹内 それと同時に、学習などのようにあまりかたぐるしく考えな いで親しみを増す機会というか、宿屋の枕のうばい合いをした なんというか友人同志が親しみを増すとか、クラスの気もちが こととか、自分のおつゆをまかしたとか、そういうところに、 会ではないだろうかね。 一つになるとか、そういうことに修学旅行というのは大事な機

竹内 劇場なんか行かなかったのですか?

充分に見れるように、スケジュールを組んでほしいですね。 間が少なかったけれど、やっぱりそういう興味のあるところは

行かなかったです。

日立のあたりじゃないかな、日が立つところだから。

笹島 東京の印象はどうだった? 個人的に行った人はいるようですね。

たとき日本の首府だなあと思いました。でも住んでみたいとは 住みにくいところだと思いましたね。 ゴミゴミしていて、車が多くて、でも東京タワーの上から見

司会 思いませんね。 んだけれど、やはりゴミゴミした所へきたとしか思いませんで 僕は最初に着いた日には東京に着いたという気がしなかった

ある生徒会活動をふり返ってどう思いますか。 いろいろ思い出が多かったようですね。それでは僕達の仕事で

はエート、一年生の教室を回って歩いたということ、それから 作成が一つの大きな成果だったと思います。細かいものとして 僕はまずここにもあるんだけど(規約の方を示して)規約の

や山崎さんと残っていたんだけれど、その時に小使いのおじさ です。思い出としては規約を作る時、夜九時、十時まで広川君 ど、削よりも活発になってきたと思いますね。そういうところ 代巖員会だとか総務員会の、まあ記録は残っていないんだけれ んから晩ご飯などいろいろお世話になりました。あの時は本当

にうれしかったですね。それから人生についていろいろ語った のも楽しい思い出です。ね、広川君。 そうだったですね。いい思い出だったと思います。黒川さん

司会

黒川 なので、その間を生徒の身近なものにしていこうと思ったので はどう思いますか。 当選した当時は、生徒会と生徒との結びつきが薄かったよう

> に思います。 すが、やはりまだそこまで行っていないようです。そこが残念 僕もやっぱり就任した当時、ここにいるみんなのスローガン

司会

は動きがにぶかったこと、そして後半になってからようやく規 と心配です。それから全体的に反省してみるとまず最初のうち も一・二年生にどこまで理解してもらえるかと思うと、ちょっ としてそのように思っていたのですが、例えばこの規約にして

僕は最初の仕事として、火災見舞いにいったんだけれど、そ

約を作成したという程度でなんとなく物足りないような気がし

中川

の時は会計の仕事が忙 しくな りそう だなと思いました。思い

司会 出としてはそれぐらいのことだけです。 僕の一番最初の仕事になったのは上野君の事故があったでし

ことなど印象に残っています。

ょう。その告別式に参加したことなんだけれども足の痛かった

ので、ちょっと残念だったけれど、生徒会を通してそういう事 をなくしたらという又新しい希望がわいてよい勉強になったと やっぱり一番めの仕事がそういう悲しいことでスタートした

黒川

司会 ぐ、修学旅行があったので、それからあとの行動がうまくいか 思います。 最初のスタートのにぶった原因としては仕事をは じ め てす

笹島(それもはいると思いますがね、やっぱり不馴れだったという なかったのではないかと思いますが………

ことも原因じゃないでしょうか。

7

クアップ的な役目をしてくれる人がいなくて残念でした。も代職員でも大分いましたのでそういうことからいってもバッね。発表する人もある限られた人達だけだったし、欠席する人沢口 反省するといっても、その材料がまったくできていませんで司会 沓記の仕事を反省してみてどうですか、沢口君。

ような気がします。 した 去年、おととしの代職員会に比べると、おとなしすぎたい僕も一年間職長をやってみて発言の少なかったのには困りま司会 今、沢口君から代職員の不活発ということが上げられました

竹内(今、生徒会活動に関するいろいろな反省や思い出などがいわいましたが、やっているうちにおもしろくなってきました。木村(私ははじめは邯記に当選して字がまずいので困ったなあと思

今年ですね。あるいは日常の学校の生徒の活動を指導していくら生徒が編集に参加してきたんだけれど、実際に活動したのは規約の制定、生徒手帳の作成、あるいは生徒会誌にしても去年かれたんだけれども、先生は非常に今年の生徒会は大きな功額をれたんだけれども、先生は非常に今年の生徒会は大きな功額を

は非常に重要なことだと思います。そういう意味で、みん なっても学校は生徒の場だからね、そういう意味で生徒会の活動す。学校も五年たって大体の校舎も完成したし、教育的な活動さいうことも軌道にのってきたと思いますけれどね。それにしても省しなければならない点だと思いますけれどね。それにしても省しなければならない点だと思います。同じ生徒会役員にことにしてもよく働いてくれたと思います。同じ生徒会役員にことにしてもよく働いてくれたと思います。同じ生徒会役員に

やっぱり入ばりことが大きな話望どと思います。とっぱり入ばりことが大きな話題を変えて話し合ってみましょう。とて非常に感謝しています。これが私の感想ですね。単校の歴史の上に残る仕事をしていってくれたということに対動が非常にやりやすくなるだろうと思います。そういうわけで動が非常にやりやすくなるだろうと思います。そういうわけでが、この学校に土台をつくってくれたというか、次の生徒会活が、この学校に土台をつくってくれたというか、次の生徒会活

司会

がないとかいわれますが、各クラスの様子はどうですか。 先生方には今年の三年生は、のんびりしているとか、ファイト司会 入試のことが一番話題になっているようだけれど、いろいろ笹島 やっぱり入試のことが大きな話題だと思います。

司会(僕達のクラスは自習時間なども、のんびりしていて試験が近全員(沈黙)……

づいているような感じがしませんが………

が。 家に帰ってから、そのぶんもがんばっているのかもしれません

(爆笑) 竹内 家に帰ってからもやってないんじゃないかな。

(爆笑)中川 僕達のクラスは女子の方が真面目なようです。

司会 入猷を離れて話題になっていることはありませんか。 てきたように思います。 なんのクラスは入試が近づいてかえってクラスのまとまりがで

れど競技をやるために、おどしをやって金をとってみたりそうれにともなう暫とか、レーシングカーそのものも良い遊びだけばエレキなどは非行のうちにははいらないかもしれないが、そ竹内(中学生の非行ということが問題になっているけれど、たとえ

×

いうことが、よく新聞にでているけれど、五稜ではそういうこ とはどうなんだろうね。

ほとんどないんじゃないですか。

ないですね。 聞いたことない?

全員

今の自分違を失っているような感じでそんなに思いとばかりい えないのじゃないでしょうか。 会ではいっているけれど、そんなのまでとりあげてしまっては でもいちがいにエレキは悪い、レーシングカーは悪いって社

笹岛 はやはり時代のちがいもあるんでしょうね。 **僕も同じような意見なんだけど大人に理解してもらえないの**

司会 今、時代のちがいっていうのがでましたが、どの時代にも今 受験っていわれてる時期はね、だからそれもとりあげてしまう が求められているのじゃないでしょうか。時々今のように受験 と思うけど、まだ僕達は若いからエネルギーのはけ口というの のエレキに似たような要素をもったものがあったんじゃないか と、かえってへんになる人ではないでしょうか。

竹内(結局、いきすぎなければ決して悪いものじゃないんだね。た はけん実だというか、又ある意味においては元気がないという てくるものだろうし………今の話を開けば、五稜の生徒の気風 というのはあまり感心しないね。時代が違えば遊び方も変わっ だ一部の現象だけを見てそれを悪いときめつけてしまういき方 ように感じられますが、どんなものですか?

司会 それでは最後に後輩に希望することを一言ずつお願い しま

笹島 まず来年度の生徒会役員への希望なんだけど、今規約をつく ってしまって来年からは仕事がやりやすくなると思います。僕

違の時にはこういうものが全々なかったので、自由にやれたこ ともありましたが、その反面やりにくいところもたくさんあり

スローガンだった「生徒会を身近なものに」ということをもっ

その点で今までの生徒会よりも、もっと活発に、そして僕達の

と実現していってもらいたい。

っといろいろやってもらいたいと思います。

会計は今年はただお金を集めるだけだったので来年からはも

中川

沢口 てきたのでなるべくなら同じクラスから選ばれるとやりやすい と思います。 生徒会の邸成について今まではバラバラなクラスから選ばれ

- 他校との交流というものはあまりなかったようですが、全市 など、五稜生徒会が外にたいしての目を開いたということは記 市や道内の中学校の生徒会から規約をとりよせて研究したこと の協議会に参加したり、又、規約生徒手帳の研究のために、全

録されてよいことではないかと思います。

山崎 今年の生徒会役員は全員三年生だったけれど、二年生でも三 のへだたりなく、本当にいいと思った人を選ぶということ、そ 年生に劣らないくらい立派な人物がいると思いますから、学年 **うことがなかったのでもう少し積極的に参加する人、そういう** れから総務委員会を開いての感想ですけど、全員が集まるとい

黒川 人にやってもらいたいと思います。 三年生になって受験が近づいてくると、夜遅くまでガリガリ

a)

い。 を強する人も中にはいると思うんです。それでそういう人がいめ合までのような楽な気持ちで受験を突破しても らい ただから今までのような楽な気持ちで受験を突破しても らい たがいらくない

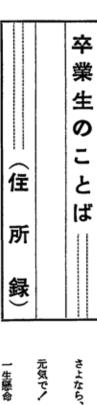
れるのがいいと思います。 木村 私はさっき山崎さんが言ったように生徒会に一・二年生を入

竹内 先生は、校舎を大事にしてもらいたいと思います。やっぱり竹内 先生は、校舎を大事にしてもらいたいと思います。やっぱり

ましたが、僕もこういう会の司会は不慣れでうまくいきませんでしたが、座談会にも表わされているように、まずいながらもでしたが、座談会にも表わされているように、まずいながらもましたが、僕もこういう会の司会は不慣れでうまくいきませんましたが、僕もこういう会の司会は不慣れでうまくいきませんましたが、僕もこういう会の司会は不慣れでうまくいきません

今日はどうもありがとうございました。

司会 生徒会誌「五稜」の編集にあたって始めて座談会を開いてみ



年 A 組

いつも明るく正しい心、そして自分の行動に自信を持って進め!

夢と希望を持って、一つのことを達成するまでガンパリぬこう 田家町 口窗

心に母校を、目の前に太陽を 五稜郛町 勇気を持ってただ前進!

白鳥町

山

内

膀

進学、就職しても強く明るく、元気に希望を持って進もう 五破郭町 子

ዯ

夫

進学、就職しても元気で行こう

五稜郛町

极性一代 一歩後退、二歩前進 田家町

飨

子

孲

治

明日があるさ/

蒔

田

珞

次

体を大事に一日一日楽しく過ごそう

いつまでも元気でね

髙

栖

盛

俊

明日を信じよう!

五稜郊町五一

後輩の踏君、勉強に、運動に、どんどんはげもう! 田家町

戦争とは真実を最初の犠牲者にする

柳町

長谷部

州

可

朱子いわく「精神一到何事か成らざらん」 五稜郭町

商

櫉

英

昭

傘

代

和

紀

南

正

博

理想にはばたけ 田家町

雄

哨

何事にも勇気と努力! 田家町

住

山

省

俖

友愛協闘、自主勉励。の精神を忘れずに何事にもはげめ 田家町

佐々木

節

子

「友愛、協調」の精神を忘れずにノ 田家町

五稜郭町

田

了

田家町

菅 野 男

山 田 쑙

幸

Ж 爱 =

及

北

島

昇

五稜郭町

さよなら、いつまでもお元気で、遠者にくらせ!

茶 虰

忠

白 石

八幡町

B 正 実

隆

| _ | 01 - | _ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|----------------|-----------|------------------------------|---------------|------------------------|---|-------------------------|--------------------------------|----------------|-----|-------------|------------|------------------|---------------------|--------------------|--------------|------------------|-------------------|------|--------------------|----------------------------|----------|-----------------------------|--------|-----------|
| ファイトで行こう | 五稜郭町 | 元気でがんばろう! | 万代町 | 中等時代の「意見し出す」、 | | | 何事にも責任を持ってノ | 八幡町 | 自分のしたことに責任をもとう | 田家町 | 明るく正しい心を持とう | 田家町 | 進学、就職ともいつまでも元気で! | 田家町 | 五稜中学校を生徒みんなで大切にしよう | 柳町 | 明日の幸福のために今日努力しよう | 田家町 | 努力? | 白鳥町 | 苦しみや悲しみがあっても、決して負けずに生きていこう | 田家町 | どんな困難な事にぶつかっても、最善を尽くしてがんばろう | 五稜郭町 | 一生懸命ガンパレノ |
| | 坂 | | 森 | | | 室 | | 星 | | 落 | | 伊 | | 淹 | | 小 | | 進 | | 保 | ۲٠ | 伊 | んば | 大 村 | |
| | 井 | | 内 | | | H | | 沢 | | 合 | | 原 | | 下 | | Щ | | 藤 | | 科 | 5 | 藤 | ろう | | |
| | 美律子 | | 益 | | | 良 | | 顣 | | ひろみ | | 客惠子 | | 富美枝 | | 湭 | | 恵美子 | | 栄 | | 公 | | 賢 | |
| | 子 | | 子 | • | | Ŧ | | 子 | | Ž, | | 子 | | 稄 | | 子 | | 子 | | 子 | | 子 | | = | |
| 港町敷地 | 明日の希望をもってがんばろう | 五稜郛町五四 | 卒菜をむかえて前進あるのみ。ファイトを燃やしてガンパロー | 田家町 | あまり大きな望みをもたず、着実に一歩一歩進め | | これからの仕事を、発見して、これにはなるして、 | これいつり士はや、幼食こらファイトと梵やして一も恐命多りして | 三年B組 | | 花岡町 | 何事にも努力 | 五稜郛町 | お互いに、人生の荒波をこえてがんばろう | 五線郭町 | 毎日の生活を楽しく大切に | 五稜郭町 | 正々堂々と未来に向かって前進しよう | 五稜郭町 | 皆様、お元気で正しい道を進んで下さい | 八幡町 | 頭張って行こう! | 五稜郭町 | 何事も程々に | 五稜郛町 |
| 金 | | 小野寺 | ガン | 東 | | ø | 4 | Ė | | | 松 | | 滩 | | 村 | | 平 | | 佐 | | 村 | | 永 | | 御 |
| 子 | | | ,; - | | | 野 | 1 | 8 | | | 本 | | 本 | | 田 | | 井 | | 廢 | | 岡 | | Ħ | | 田 |
| 要 | | 吉 | 1 | 征 | | | i | Ď | | | 和 | | 英 | | 由笑子 | | 2 | | 和 | | 攻理子 | | 明 | | 雪 |
| 次 | | 政 | | 可 | | 魁 | 1 | t | | | 子 | | 子 | | 子 | | 子 | | 子 | | 子 | | 子 | | 子 |

| | | | | | | | | | | | | - | 62 - |
|---|---|---------------------------------|------------------------------|----------------------------|--------------------------------------|----------------------------|--------------------------|----------------------------|------------------------------|--------------------------|--------|---------------------|--|
| うに努力しよ | 何事も経験、なんでもやってみよう! 柳町 | 何事もファイトのかたまりでやり通そう田家町 | 何事にもくじけず強い意志と希望を持って前進しよう田 | 夢を持ち希望を持ち、心で決めた道をまっすぐに進もう。 | 任くは就職、きみは進学、いっしょにがんばろう 自意町 | 花のように美しく、松の根の如く力強「意志を持て八幡町 | 仕事に勉強に、自信をもって努力しよう深堀町 | 大きな夢をもち、将来に向かって進もう 田家町 | 中学校生活を終えても、努力と根性をもって未来へ前進しよう | 卒業しても仕事や勉強に希望をもって前進/前進だ/ | 田家町 | 自分の理想の道に遠するように努力しよう | 田家町工の職人根性/さあ、これらをもって前進だ/ |
| | 是 谷川 | 西 | | も施う | | | 菅 | 下 | 前進 | | | | 工道だ |
| 井 川 | | 村 | 湖 | 本 | | | Ж | 山 | ŗ | 谷 | 保 | | |
| | 秀 | 恒 | 飭 | | | | | 幸 | | 袋 | 幸 | | 哲 |
| 仁 豊 | Ξ | 夫 | Ξ | 男 | E | 市 | 治 | 椒 | | 夫 | Ξ | | Ŕß |
| 誠 い | * | | | | | | | | | | | | |
| 以実と勉強を友として、一歩一歩前進しよう 田家町 いつでも大きな希望をもって前進しよう | 田家町 田家町 | 毎日が充実した日を送れるように努力しよう | 五稜郭町 目標に向かって前進しよう/ | 新鮮な果物のように若く豊かな生活を送ろう | 一日一日を努力することによって人生は決まる | 自分の墓は、自分で掘れる一番を開れる。 | 社会へ出る人、進学する人、どちらもがんばれ人橋町 | きょう全力を尽くせ、そうすればあしたは一段と常田家町 | はない。努力によ | | 五稜郭町 | 誰にでも惜しまれるような人になろう | 八幡町ファイトのかたまりのように元気で行こう |
| 一歩一歩前進しよう | 田家町 小望とは、底の深い幕の上でなければ決してその遅なな | 毎日が充実した日を送れるように努力しよう | 五稜郭町 石 日標に向かって前進しよう/ | 新鮮な果物のように若く豊かな生活を送ろう | 一日一日を努力することによって人生は決まる | 月がから 八幡町 橋 五稜郭町 銀 | どちらもがんばれ高 | 一段と進歩す | | | 五枝郭町 堀 | | 八幡町 上っている。 日本のでは、日本のは、日本のでは、日本 |
| 一歩一歩前進しよう | 田家町 小形型とは、底の深い海の上でなければ決してその涙をひろば | 毎日が充実した日を送れるように努力しよう 稲 場 | | | | By | どちらもがんばれ | 一段と進歩する三、油 | | | | | |
| 一歩一歩前進しよう | 田家町 小形律子 子希望とは、底の深い毎の上でなければ決してその遅をひろげない | 白鳥町 稲 場 文 江毎日が充実した日を送れるように努力しよう | 石 | 乒 | 赤 | 町 田 | どちらもがんばれ 高 樹 守 | 一段と進歩する三、油、英 | ってそれをきりひら | | | | 星 |

| | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|------------------|------|-------------------|------|----------------------|---------------------|----------------------------|--------------|----------------------|-----------|-------------------------|-------------------------|------------------------------------|---------|-------------|------------------------|--------------|-------------------------|-----------|---------|-----------|--------------------------------|------|----------------|------|--------------------------|
| 白鳥町 | 大きな希望を持ってすすみましょう | 五稜郭町 | 大きな希望を持って社会の中を進もう | 柳町 | 残された自分の道を有意袋に過ごしましょう | 宮前町 | 私達はどんなときでも常に美しく、正しい道を歩むべきだ | 八幡町 | 何事にも努力をおしまず、正しい道を歩もう | 田家町 | 知恵と勇気をもって一歩また一歩と前進して行こう | 八幡町 | 正しい道をまっすぐに進もう | 白鳥町 | | 人生のなやみをくぐった者ほど生命の尊さを知る | 八幡町 | 人につくし、自分に強くなれる人間になって下さい | 亀田郡亀田町字宮岡 | 何事も健康第一 | よう 宮前町 | 水の流れのように済らかに、自分の仕事に自信をもって頑張りまし | 五稜郭町 | 未来に向かって常に前進しよう | 柳町 | 失敗しても自分で道を切り開く強い心を持ちましょう |
| 山 | | 糜 | | 浜 | | 西 | i i | 中 | | 長 | • | 時 | | 3 | | | 桜 | • | 酒 | | 近 | うて | エ | | 木 | 5 |
| 本 | | 原 | | 地 | | | だ | 村 | | 尾 | | | | Ħ | | | 庭 | | 谷 | | 藤 | 頭張 | 藤 | | 村 | |
| 澄 | | 美枝子 | | 満知子 | | 純 | | しのぶ | | 彰 | | 久 | | N | | | 久美子 | | 裕 | | 裕 | りき | 恵美子 | | 美 | |
| 子 | | 字 | | 孚 | | 子 | | Š | | 子 | | 子 | | 7 | - | | 字 | | 子 | | 子 | ī | 穻 | | H | |
| 白島町 | 永遠の前進 | 宮前町 | 希望と目標をめざして進もう | 五稜郭町 | 持って | の道程、ただ前進のみ、勇気を失なわず、 | | 学問に近近かし、こを移す | | 倒尿を第一に進るう | 使计量范扎度一丁目 | まその自分は対象サマーガーカを実に直近して名。 | 見近り自分こ為己とゲールーを確認この第一でデニケーを発見しています。 | 互要移行 | 悪をすて、簪をみいだせ | 柳町 | ロびるに歌を、心に太陽を | 宮前町 | 希望を持って進もう | 田家町 | プきな利益を表でく | 大きな音目と手に | 三年C組 | | 五稜郭町 | 友情の綱を永遠に持ちつづけましょう |
| 汳 | | 小 | | 日下語 | ! | 餐 | J | i | 7 | t | 与日川 | 2 3 | 5 7 | b | | 荒 | | 苔 | 3 | 朲 | | | | | 水 | |
| 本 | | 松 | | 剖 | 3 | 5 | . 2 | Ľ | | b | J | Ĭ | E | H | | Щ | | 田 | l | 元 | ; | | | | 野 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 梸 | | 무 | | 1 | * | ŝ | 9 | ĝ. | ø | Ē | # | ā | | 知 | | Ξ | | 孪 | | | | | 美知 | |
| 由处子 | | 稍子 | | 早苗 | | 友情とファイトを | * - 3 | | 多及刊 | e H | # 7 | | | ia F | | 知 子 | | 迪 | | 学子 | | | | | 美知子 | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | - | 64 | _ |
|-----|----------------|-----|----------------------|-----|-----------------------|------|-----------------------|-----|---------------|----------|------------------|-----|----------------------------------|---|------|----------------------|-----------|----------------|------------|-------------|----------------|-------------|---------------------|---------|------------------------|------|------------------------|
| 田家町 | 自ら得た体験は永遠の室である | 田家町 | 私達はこれからの人だ。新しい世界を築こう | 田家町 | 未来に希望をもて | 田家町 | 努力こそ最大のたまものなり | 田家町 | くちびるに歌を、心に太陽を | 松蔭町 | 共に学んだ友人の思い出磔き三年間 | 白鳥町 | 免営は学生の寛である。ナンジの敵を愛せ(キリスト) | 五種子のグラーの一番のでは、これのでは、一番のでは、一をでは、一をでは、一をでは、一をでは、一をでは、一をでは、一をでは、一を | 五交事工 | 人間の幸わせに愛情を欠かすことはできない | 亀田郡亀田町本通り | ほほえみをいつまでも忘れずに | 田家町 | こしい対象が強く対する | ヒン、住とり致く生るう | 白鳥町 | 人間を愛する喜びを知れ | 宮前町 | 一本の道、力強く進め | 五稜郭町 | 楽は苦の種、苦は楽の種 苦労のしがいはある |
| 笠 | | 吉 | | 山 | | 籔 | | 藤 | I | E | | 平 | £ | × | ŝ | | 成 | | 中 | • | | | | 简 | | Ħ | |
| 原 | | 村 | | 田 | | 下 | | 田 | | 島 | | 田 | | J | II. | | 田 | | 村 | 1 | i | 西 | | 井 | | 中 | |
| 早 | | 洋 | | 優 | | 敏 | | 撉 | 1 | 良 | | 秀 | | 由有干 | þ | | 静 | | 游 | ţ | Ē | 變 | | 良 | | 由美子 | |
| 苗 | | 子 | | 子 | | 子 | | 子 | : | 子 | | 子 | | Ť | F | | 子 | | 7 | - | : | 子 | | 子 | | 穻 | |
| 八幡町 | 思いきり学んで、思いきり遊べ | 八幡町 | 何ごとも笑顔と努力をわすれるな | 八幡町 | 七ころび八起き、ころんだからには起きあがれ | 五稜郭町 | この世は三雄。勉強難、金難、女難?シェー! | 田家町 | 何事もファイトで行こう | 田家町 | 希望をもって前進せよ | 田富貴 | T Z | 時は金なり、時間を大切に | 五稜郭町 | 料本一筆なにことか成らさら人 | | 白鳥町 | なにごともなせばなる | 白鳥町 | これからがほんとうの人生だ! | 田家町 | 五稜中の諸君、目標に向かって前進せよ! | 人婦町 大沢利 | 五稜中学校に入学しての三年間、ほんとうによか | 五稜郭町 | この五稜中学校に入ってほんとうに幸わせでした |
| 玉 | | 東 | | 柴 | | 沢 | | 佐 | | 佐 | | R | Ħ | | ェ | | : | I | | 笠 | | 角 | i | 大 | った | 内 | _ |
| 野 | | 東海林 | | 田 | | п | | 糜 | | 木 | | ŧ | ì | | 藤 | | , | 藤 | | 井 | | 田 | I | 沢 | 患 | 田 | |
| 順 | | 跰 | | 光 | | 良 | | 正 | | 雅 | | | | | | | | 功 | | 岩 | | 黎 | ŧ | 利 | き | _ | |
| _ | | 則 | | 芳 | | 介 | | 苺 | | 晴 | | 7 | ê | | 克 | | | 悦 | | 生 | | 圳 | ì | 審 | 7 | 夫 | |

÷

生きて行こう、ファイトをもって、そして背脊を楽しもう 狭き門「太った人はどうするの?」 無費任時代を乗りこえて自分自身で精一ばい努力して行こう 太陽のような明るい心で一日一日をベストでつくそう 幸わせになることだ あなたの道はあなたの道、私の道は私の道、でも考える事は同じ。 登られたのだ 長い道、自分の力で行け、そうすればいつかは殆く、エベレストは サアーイコー、オオー現実はきびしいなァー スクラム組んではてしない未来に向かって元気でいこう 絶望というものは人生にはあり得ない どんなことでもうちあけられるような親友をもて 我れ泣きぬれて試験とたわむる。 アッハン 七ころび八おき 柳町 船見町 宮前町 田家町 田家町 五稜郭町 白鳥町 龟田郡龟田町字宮岡 五稜郭町 太 井 足 伊 辰 石 H 田 地 樫 崎 沼 沢 堰 宫 臌 向 英 かほる 窜 百合子 久 文 Œ 直 子 子 美 文 裕 椒 明 瘵 あの背空のような広い大きな心をもって進んでいこう 何事もファイトが基本――高校入猷に一歩前進 幸福はわれの手でつかむものなり れません 学校を卒業すると思うとなんとなくさびしくていても立ってもいら 心に夢を、口びるにほほえみを、手に幸わせを 強く強く、あすなろのごとく が生まれる 勉学と努力と正義は生涯失ってはならぬものだ。そこに完全な人間 ているのだ マイナスの美 いつも明るく正しい道を 努力!前進!ガンパレ! ほんとうの喜びとは何か、それは一人で立派に事を成しとげた時だ **骨方の求める道、私の求めつつある道、それは違う、世の中が異っ** にファイト、二にファイト、11に……?ファイトファイトク 田家町 田家町 日吉町 五稜郭町 湯川町二丁目 柳町 田家町 粲川町 亀田郡亀田町本通り 亀田郡亀田町本通り 田家町 五稜郭町 中 黒 久保光 髙 佐 紺 髙 本 谷 野 村 概 Ж p 木 井 藤 良 真知子 みちほ 涸 房 範 正 和 広

子

子

美

子

子

子

五稜郛町

上

宫

利

明

した

白鳥町

土方侶

進

仁

美

千里の道も一歩から――一歩一歩前進しよう 平原を走れ!カバンを持って…… 仕事を終えたあとはとても気もちがよい。その気もちをわすれない 人生、肉体がくたびれる前に魂がくたびれるのは恥ずかしいことだ 労働なくして楽しみなし ようにしたい 苦しさも、かなしさも乗りこえて栄光を勝ちとろう 心の健康と体の健康と強い生活力を持とう 生命の躍動を自ら感じ、そして実行する時がきたのだ 人生は努力してこそ勝利をえる たとえ今は嵐になろうとも、いつかは小鳥鳴き、花の咲く春が来る 「学問に王道なし」とか――よく学び、よく遊べ Ξ 年 田家町 白鳥町 田家町 田家町 田家町 田家町 E 五稜郭町 組 五十以 ቑ 相 没 利 孝 山 福 山 北 井 沢 山 本 田 村 齮 正 秀 フミ子 公子 守 るり子 裕 美智子 人 隆 寬 Œ 子 新しく出来た特別教室を少ししか使えなかったことだけが心残りで 人生は長い。心を大きく持とう。持って持てないことはないノ ろう 愛されることは、愛することよりむずかしい 失敗は成功のもと、何ごとも努力。くよくよしない 三年間の経験をこれからの人生に生かしたい 人生の最大の喜びは君には出来ないと世間が言うことをやることだ ┏自主勉励┏の精神でやりぬこう 柔道はけいこにあり、人生は努力することにある ぼくの処世訓――一に聴眠、二に努力、三に根性 多く問い、多く学ばむ 荒海の激しく冷たい波にうたれても、わが行く退はただ一つ 自分の道を持て、人をたよるな『ファイト』 わが母校の旗よ、いつまでもなびいてくれ 五稜郭町 白鳥町 五稜郭町 白鳥町 田家町 宮前町 田家町 五稜郭町 白鳥町 中 月 Ж 沢 I 北 小 佐 村 Ш П 野 沢 藤 沢 땕 正 千代春 鸠 喜

裕

Ξ

良

夫

隆

伸

E

英

| コッコツ刻み続ける歯車のように、たえず前進ノ 八幡町 工 藤 久 子 | 何ごとにも負けずくじけず 木 村 ト シょう | 朱知の国=社会、希望の破れる時もあろう、しかし希望は持ち続け田家町 木 村 早百合 | べてが意義を持つのではないだ。木 地 | 友ようこう、勇気をもって 大山路子 | 人間は永遠に未完成なもの――しかし、完成に近づくために努力し田家町 井 村 美知子 | まっすぐのぼる煙に、Дよ、邪魔しないように 荒 井 由美子 | 悲しみならば忘れよう、ほほえみならばいつまでも ぎっれ 倒 一 | ピかず さす & | 五稜郭町 吉川 修自分に与えられた道を行こう――その道は就験の道 | 柳町 山田耕作 かれら十代の闘志を、着さを、われらの人生の目標へぶっつけよう | | 五稜郭町 藤田州 司温室から外へノ外の空気はつめたいよ |
|------------------------------------|---|---|---|-------------------|---|---|---------------------------------|--------------------|----------------------------------|--|-------------------------|-------------------------------------|
| 毎日を楽しく元気に、ファイトを持って 南 かおるたい 田家町 | 七ころび八起き―――何度ころんでも起きあがるだるまのようでありろう 駒場町 松 井 葉 子 | する、ほほえみとは何と素晴らしいもの | 五稜郭町 牧野 質子友を愛するから友情である、この友情をいつまでも 田家町 古仲 淑子 | まず自分がよき友になることだ | 田家町 住分の道をしっかりと、目標に一歩一歩近づこう | りたい 松前郡福島町字福島 中 田 三樹子気は長く、心はまるく、腹は立てず、いつも笑っていれる人間にな | 田家町田原・野・大 | 希望を持って道を崩かむ 武子 みどり | よって母かれたおとぎ話のようなす | 9・ノそして努力ノ | 田家町 三 寛 由 紀歩き続けより、光を求めて | 五稜郭町 小山 芳 枝短い人生――喜び、悲しみを大いに味わいたいもの/ |

田家町

小 林

千భ子

白鳥町

茂 木 鈴

子

| 宮削町 | 务 力 | 田家町 | いつも明るく太陽のように | 五稜郭町 | 大潮、小潮を乗りこえてまっすぐ進め五稜中 | こう 五稜郭町 | 五稜中学校のみなさん、毎日の生活を明るくほがらかに過ごしてい | て進もう 柳町 | 果てしなく流れる時の流れに未来の幸福を信じ未来の幸福に向かっ | 龟田郡龟田町中道 | 五稜中学校に夢をかけてがんばれ | 田家町 | 正々就々 ヨ有写出 | 左交形打 | 所交舎をいつまでもたいせつこ | 三 年 F 総 | = | | 白鳥町 | ほんとうに生きたと思える人生のために今日という日を大切に | 五稜郭町 | 良い心には神は金の矢を与え、悪い心にはさばきを与える | 五稜郭町 | 心は広く持とう、広大な背空のように |
|-----|----------------|-----|---------------------------|-------------|----------------------|----------|--------------------------------|--|--------------------------------|----------|-----------------|--------------|-----------|-------------------------|----------------|------------------|----|----------------|-----|------------------------------|------|----------------------------|-------|-------------------|
| Ш | J | Ш | | 河 | | 内 | りかと | 上 | 米の去 | 上 | | 井 | f | P | | | | | 花 | り日か | 池 | を与え | 山 | |
| 内 | = | 井 | | 井 | | 田 | 過 | 沢 | 福に | 坂 | | 上 | ij | 委 | | | | | Ħ | 춫 | Ħ | õ | 村 | |
| | E | 聚 | | Ц | | Œ | Ļ | 雄 | 向か | | | 袋 | | | | | | | 初 | É | 敦 | | 紀 | |
| 茂 | 3 | 光 | | 吉 | | 美 | Ň | 平 | 2 | 登 | | 則 | ł | 4 | | | | | 美 | | 子 | | 子 | |
| | 自 | Ŀ | _ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 田家町 | を大切に、そ | | 長い道、正しく行こう。そして進学・就職をおおい | 亀田郡亀田町富岡 | 真実一路 | 五稜郭町 | なにごとも努力 | 200 200 三 5種にできます。 オル・カル・ | 受して受して互変中を受しらゃっこのより | してもクン=ウで | いつ・ロアノコウで、田家町 | 理想に向かって前進しよう | 田家町 | あと少しで五稜中ともお別れ、少しさびしい気持れ | 田家町 | さらば初恋の五稜中 | 构町 | 何事も良心に従って行動します | 宮前町 | 勉学、運動にはげもう | 白鳥町 | 勉強は努力である。努力をしない勉強はない | 五稜郭町 | 人は人、われはわれの道をゆけ |
| 田家町 | を大切に、そして他人も大切に | | | | | | | が 1 - 2 - 1 - 1 元後郭町 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - | 受して受して互変中を受しらゃっこうより、 | 7. 高い | いつのアノコクで 田家町 様 | | 田家町 | あと少しで五稜中ともお別れ、少しさびしい気持ち | 田家町 | さらば初恋の五稜中 | 柳町 | 何事も良心に従って行動します | 宮前町 | 勉学、運動にはげもう | 白鳥町 | 勉強は努力である。努力をしない勉強はない | 五稜郭町川 | 人は人、われはわれの道をゆけ |
| | を大切に、そして他人も大切に | | | 亀田郡亀田町富岡 | 1 | 五稜郭町 | 2 | | | | 田等町 | | | あと少しで五稜中ともお別れ、少しさびしい気持ち | | さらば初恋の五稜中 | | 何事も良心に従って行動します | | 勉学、運動にはげもう | | 勉強は努力である。努力をしない勉強はない | | 人は人、われはわれの道をゆけ |
| Щ | を大切に、そして他人も大切に | | | 亀田郡亀田町富岡 三 | 1 | 五稜郭町 | 2 | ¥ | 4 | 7. 高寸 | 田等町 | | 竹 | あと少しで五稜中ともお別れ、少しさびしい気持ち | 武 | さらば初恋の五稜中 | 佐 | 何事も良心に従って行動します | 斎 | 勉学、運動にはげもう | 小 | 勉強は努力である。努力をしない勉強はない | лі | 人は人、われはわれの道をゆけ |
| Щ | を大切に、そして他人も大切に | | 正しく行こう。そして進学・就職をおおいにやりぬきす | 亀田郡亀田町宮岡 三浦 | 1 | 五稜郭町 松 宮 | - E | # | 4 | 7. 高寸 | 田等町 | | 竹中 | あと少しで五稜中ともお別れ、少しさびしい気持ち | 武 | さらば初恋の五稜中 | 佐田 | 何事も良心に従って行動します | 斎 | 勉学、運動にはげもう | 小泉 | | лі | 人は人、われはわれの道をゆけ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ÷ | 70 | _ |
|------|-----------------|-----|----|----------------------|----|-----------------|-----------------------------|----------------------|-----|--------------------------------|------|---------|-----|------------------------------|------|------------------|------|-----------------|------|-----------------------|----------|---------------|----------|------------------|
| 五稜羽町 | 我らは春を特ちこがれる若い芽 | 協力 | | みんなそれぞれの道にしたがってがんばろう | 柳町 | この五稜中学校をより良い学校に | 白鳥町 | 希望をもとう、どんなことにもまけずに | 白島町 | なにことも努力! | 田家町 | 前進 | 白鳥町 | どんな時にも希望を忘れずに未来の栄光の道に向かって進もう | 田家町 | いつも明るい心をもって前進しよう | 田家町 | 常に希望を持って前進しよう | 五稜郭町 | 苦しいことにもまけないで頑張りましょう | 龟田郡亀田町中道 | 生命は生きんとする心に宿る | 亀田郡亀田町富岡 | 努力によって未来は輝く |
| 塩 | 移 | ŧ | 小 | | Щ | | 加 | | 奥 | | 岡 | | 大和田 | かって | 上 | | Ŀ | | 石 | | 若 | | Щ | |
| 田 | 朣 | ā | 泉 | | 浪 | | 藤 | | Ħ | | 本 | | | 遊 | 野 | | 田 | | 田 | | 杉 | | 齮 | |
| 敬 | 3 | ž. | 純 | | 镅 | | 洋 | | 辞 | | 幸 | | 倌 | 5 | 由美子 | | 洋 | | マサ子 | | 継 | | 博 | |
| 子 | Ŧ | ۴ | 子 | | 理 | | 子 | | 子 | | 子 | | 子 | | 穻 | | 子 | | Ť | | 道 | | 隆 | |
| 五稜郛町 | わが青春を清く明るく生きぬこう | 柏木町 | 努力 | 五稜郭町 | 協力 | 八幅町 | 多分をすって自分の近々一度に対力ではる。 | 与れどらって自分の首を一筋に進んでやこう | 八幡町 | どんなことにも負けず勇気を出してお互いにまっすぐな道を歩こう | 田家町 | よき友を持てノ | 田家町 | 希望 | 五稜郭町 | より良い五稜に | 五稜郛町 | 真理を追求し未来に向かって前進 | 五稜郛町 | 古きをたずねて新しきを知る。より良い五稜に | 五稜郭町 | 良い校照をいつまでも | 五稜郭町 | 人生になすべきことはただ一つ努力 |
| щ | | 中 | | 吉 | | Ц | ı | | 水 | すぐ | 迺 | | 髙 | | 髙 | | 瀬 | | 灦 | | 庄 | | 鯣 | |
| Ħ | | 村 | | 田 | | 飛 | £ | | 戸 | 鱼 | 村 | | 槄 | | 橋 | | 戸 | | 戸 | | 司 | | 村 | |
| ٤ | | 雅 | | 7 | | 4 | t | | 光 | を歩 | 村真似子 | | ż | | 昭 | | 淹 | | 餠 | | 明 | | 惠 | |
| とし子 | | 子 | | アヤ子 | | f | Ċ | | 惠 | 5 | 子 | | えり子 | | 扛 | | 子 | | 子 | | Ħ | | 恵美子 | |

 (本)
 <th

職員一一覧

敬 日藤庄 荒 梯奥 帰松 佐 桜 三 竹 藤 野 舜 蔚 密 田 寺 山 井 々 井 上 内 原 村 本 川 馬 一 孝 三 ミ 美 祥 喜 恭 力 厳孝 正 俊 殷 男 造 郎 ヮ 代 明 子 ー 陽 子 也 郎 一 時 守 郎 郎

FEDCBA

給仕見習 田家町

亀田郡亀田町富岡

骨炯町

4.田郡4.田町宮岡





稿の依頼、収集にかかりましたが、 十一月から役員七名が協力して原

まったことも何度かありました。 先生や編集委員全員が困りはててし **稿収集は期限までに集まらず、竹内** いずれも思うようにいかず、特に原

く思っております。 からですが、この仕事はやりがいがあるので、私たち役員もうれし 今年は、創立五周年にあたり、新しく特別教室も完成し、また生 生徒会誌の編集に生徒会役員が手を加えるようになったのは去年

しかし計画を変更したりして、やっと編集を終わりました。

徒会規約もできました。 この「五稜」も来年度さらに充実したものになっていくことを望

(広川記)

**

ともかく順調な歩みを続けてきたと言える。 この種の雑誌にありがちなことは、一応体裁がきまると、あとは 生徒会誌「五稜」も五号の発刊となった。学校の成長とともに、

それに慣れてしまってマンネリ化することだが、この弊をさけるべ

く苦心はしたのだが、なかなか思ったようにはいかない。 あり、どうやらこれで救われた。 しかし、編集委員の若いセンスとエネルギーは私の思った以上で

立ってくれれば編集子の喜びこれにすぎるものはない。 毎号のべることだが、卒業生諸君と後輩のきずなにこの小誌が役

稜 第 五 号

五

昭和四十一 昭和四十一年三月十日 年三月九日 発行 印刷

菡 館 क्त 立 五 稜 中

学

校

綢

集

話 三一三四 五. Λ

電

徒 会

印 剧 所

印

刷

K K

Ξ

塚

発

行

生

電話二-七三九〇

竹

内